

Yokohama National University
Organization for Local Collaboration Networking
Global-Local Education and Research Center

横浜国立大学
地域連携推進機構
地域実践教育研究センター

Annual Report
2022-2023

YOKOHAMA

Think Globally,
Act Locally.

地域実践教育研究センター
Global-Local Education and Research Center

地域実践教育研究センター

Global-Local Education and Research Center

地域実践教育研究センターは横浜国立大学内の各部局を横断的につなぎ、「地域」に関わる「教育・研究」を実施・推進することにより、地域活性化と地域創造を促進させていきます。

●設立経緯・これまでの歩み

地域実践教育研究センターは 2004 年に文部科学省による「現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代 GP）」事業に採択されたこと契機に、2004 年の後期（秋学期）から「地域課題プロジェクト」を開始し、2005 年から「地域交流科目」の設立に向けてコア科目などの各授業を開設しました。その後、2006 年から「地域交流科目」の設立および本格運用をし、2007 年に「地域実践教育研究センター」が開設されました。また、2012 年からは大学院副専攻プログラムとして「地域創造科目」を設置しました。

2017 年には「地域連携推進機構」が設立され、2019 年度から地域実践教育研究センターは地域連携推進機構の機構内センターとして位置付けられました。

現在、学部副専攻プログラム「地域交流科目」の地域課題実習においては毎年数百名ほどの学生が履修・参画しており、横浜・神奈川地域をはじめ国内外の各地域において地域活性化、地域支援活動を実施・展開しています。

CONTENTS 01

地域交流科目 [学部 副専攻プログラム] 02-17

Under graduate Sub-major program "Local-exchange Subjects"

地域課題実習

- ・ 転倒しない街共創ラボ
- ・ キャンパスの魅力を耕すプロジェクト
- ・ キャンパス UD (ユニバーサル・デザイン) プロジェクト
- ・ 岩手サステナブル・デザイン・プロジェクト
- ・ よこはまのかいしゃ魅力発見プロジェクト
- ・ モビリティ・デザインの実践
- ・ 現代世界の課題の探索と協力の実践 ―「結」づくりプロジェクト―
- ・ データで捉える地域課題・地域経済 2022
- ・ はまみらいプロジェクト
- ・ Yokohama Univer city
- ・ ハマの屋台プロジェクト
- ・ SSUI-yokohama PJ
- ・ New-New Town プロジェクト
- ・ ワダヨコ
- ・ まちに開いた交流の場デザイン
- ・ サコラボ
- ・ コットンおとなりさんプロジェクト
- ・ 南米農村部での学びを生かした横浜『共生』プロジェクト
- ・ 鶴見区のブラジル人住民との多文化共生
- ・ 再エネ経済循環
- ・ ローカルなマテリアルのデザイン
- ・ アグリッジプロジェクト
- ・ おおたクリエイティブタウン研究プロジェクト
- ・ みなとまちプロジェクト
- ・ 都市の自然を楽しむライフスタイル

地域実践アワード

Topic :

地域創造科目 [大学院 副専攻プログラム] 18-19

Graduated school Sub-major program

"Creative education program about local problems"

研究 20-21

Research

-1. 研究の柱

- (1) 住みたい都市に関する研究
- (2) 防災・事前復興・復興に関する研究
- (3) 地球環境未来都市に関する研究
- (4) 里地里山の保全効果に関する学際的研究

-2. 地域研究

地域連携推進機構 22

Organization for Local Collaboration Networking

- ・ 地域連携推進機構について
- ・ 地方自治体との連携協定
- ・ Next Urban Lab

関連教員 23-25

The Relationship Professors

地域交流科目 [学部 副専攻プログラム]

Under graduate Sub-major program
Local-exchange Subjects

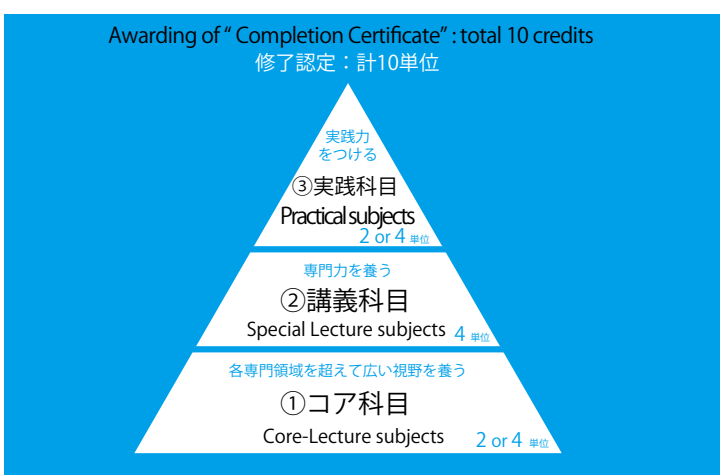
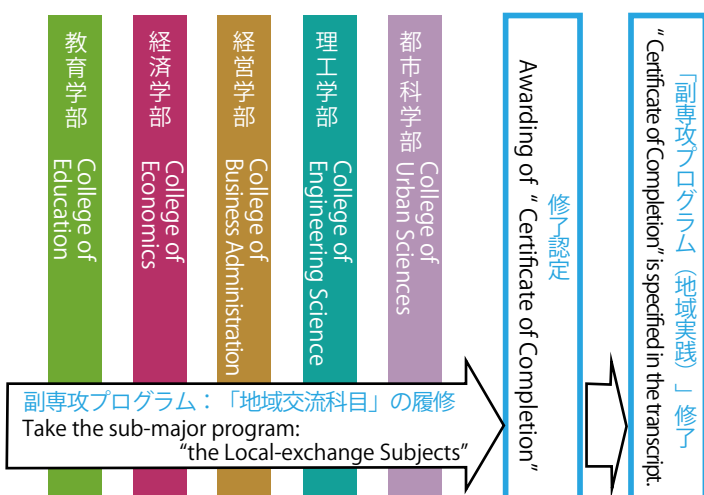
■地域交流科目について

地域交流科目は「グローバルな視野をもって地域課題を解決する、先端のかつ複合的な実践能力を身につけるプログラム」として、横浜国立大学の全学部生が履修可能な副専攻プログラムです。

このプログラムは、①コア科目、②講義科目、③実践科目の3つの科目で構成されています。 所定要件の10単位以上を習得すると、副専攻プログラムの修了認定を受けることができます。

■About the "Local-exchange Subjects"

The Undergraduate sub-major program "Local-exchange Subjects" connects independent subjects from all departments to train students as young talent who can solve local challenges with a global perspective. This program consists of ①Core-Lecture subjects, ②Special Lecture subjects, ③Practical subjects. Students can receive completion authorization when they acquire the prescribed credits of the sub-major program.



コア科目: 「地域連携と都市再生A(ヨコハマ地域学)」

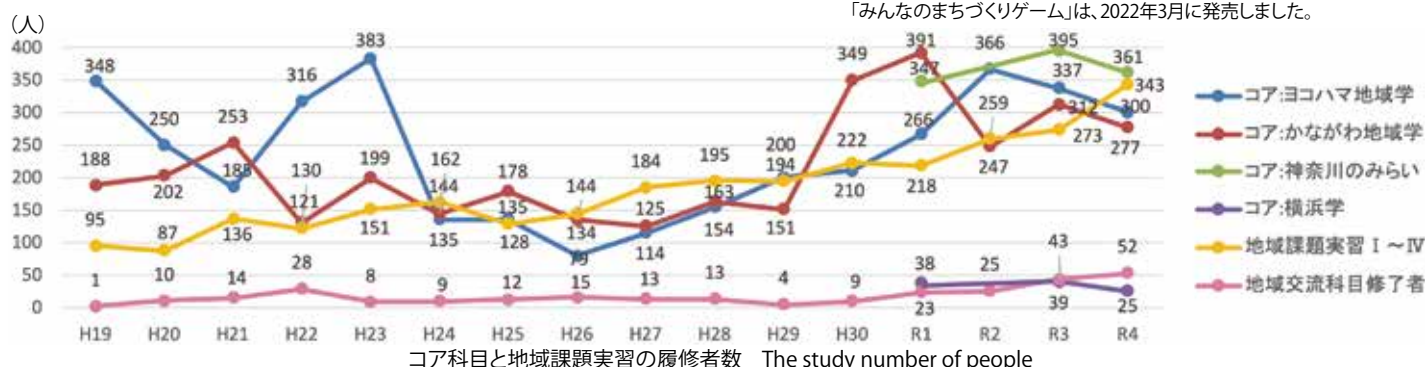
回	講義テーマ	講師
1	概論(1)オリエンテーション・横浜の成り立ち	志村真紀・内海宏
2	概論 (2) 横浜という都市を通して日本の近代化を語る	野原卓
3	概論 (3) 世界の中の横浜、日本の中の横浜	高見沢実
4	フィールド (1) 都心地域の現状と課題	野原卓
5	フィールド (2) 郊外地域の現状と課題	内海宏
6	フィールド (3) 中間地域の現状と課題	志村真紀
7	今日の横浜の都市課題(1) ～人口減少社会に向けて～	稲垣景子
8	参加型授業 (1) 現地調査	-
9	参加型授業 (2) 中間報告会	志村・内海・秋元
10	今日の横浜の都市課題(2) 国内外の港町における地域課題と再生モデル	山崎満広
11	地域再生モデル (1) クリエイティブシティと都市政策	秋元康幸
12	地域再生モデル (2) 都市農地再生と地域まちづくり	内海宏
13	地域再生モデル (4) 子どもとまちづくり	三輪津江
14	地域再生モデル (3) 商店街と地域まちづくり	志村真紀
15	参加型授業 (3) 各地域の課題と解決方法について発表・討論する	志村・内海・秋元

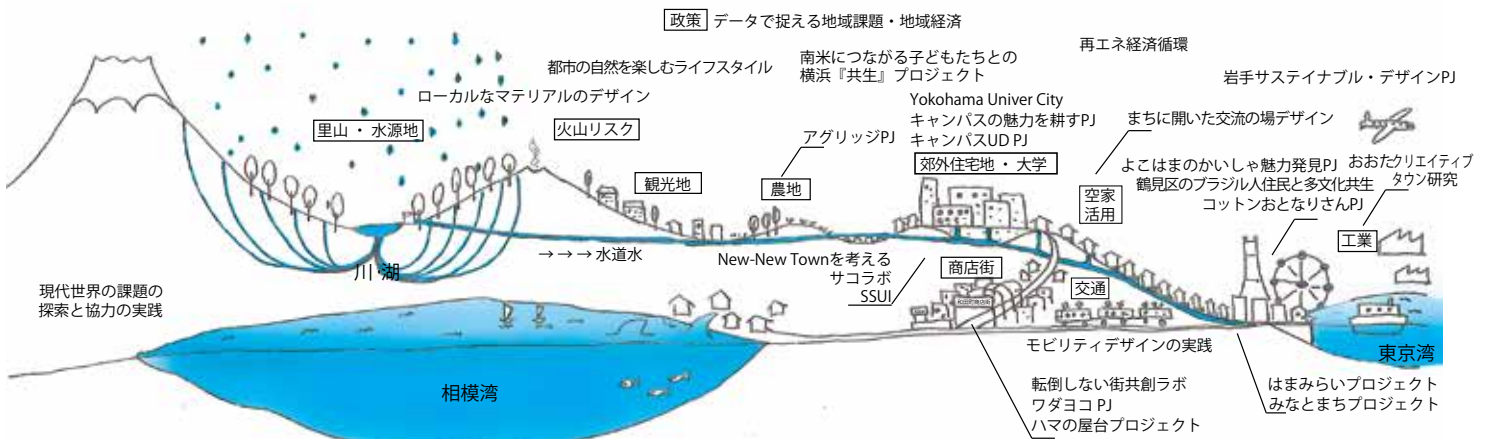
コア科目: 「地域連携と都市再生A(かながわ地域学)」

回	講義テーマ	講師
1	オリエンテーション	志村真紀
2	地域をめぐってお金の流れ: 地域経済	池島祥文
3	地方行財政	伊集守直
4	(福祉と) 地域経済	伊集守直
5	エネルギー	大森明
6	県西・小田原市: SDGsの時代における地域経営 ～持続可能な地域社会モデルへ～	加藤憲一
7	箱根町の観光まちづくりへの取り組み	箱根町行政・池島・伊集
8	政令指定都市: 横浜市: SDGsへの取り組み	信時正人
9	地方: 「みんなのまちづくりゲーム」がつくられた経緯	浅野拓也
10	みんなのまちづくりゲームのプレー方法	池島・志村・伊集・浅野
11	第1回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	池島・志村
12	第2回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	志村・伊集
13	第3回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	志村・池島
14	第4回 参加型授業 (みんなのまちづくりゲーム)	池島・伊集
15	第5回 参加型授業 最終レポート発表会・討論会	志村・池島・伊集



地域連携と都市再生B(かながわ地域学)の参加型授業の教材として開発した「みんなのまちづくりゲーム」は、2022年3月に発売しました。





2004年からの地域課題実習の各プロジェクトの実施（継続）年度

No.	類型	プロジェクト名	地域	担当教員	実施年度																		
					2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
1		デザインスタジオ	保土ヶ谷区	大原、藤岡、野沢、山口、田井																			
2		まちづくり拠点として地域に開かれた学校づくりへの参画	横浜市	額田																			
3		神奈川魅力あふれるまち	神奈川区	大原、藤岡																			
4		地域参画による学校環境のり・デザイン	保土ヶ谷区	藤岡、三輪																			
5		保土ヶ谷ハッピースクエアプロジェクト	保土ヶ谷区	藤岡、三輪																			
6		東横台地「ア」3F を実験とした老後も住み続けられるまちづくり	保土ヶ谷区	大原、安藤、藤岡																			
7		モビリティデザインの实践	横浜市、他	有吉、吉田																			
8		左近山の未来をつくるプロジェクト	保土ヶ谷区	藤岡・門倉																			
9		水辺と共生するまちづくりデザイン	逗子市	志村																			
10	ま	みなとまちプロジェクト	静岡市	志村																			
11	ち	郊外サイコウ	横浜市	野原																			
12		New-New Townを考える	横浜市	野原																			
13	づ	SSUI-yokohama プロジェクト	横浜市	尹																			
14	く	サコラボ	横浜市	藤岡																			
15		シェアハウスのデザイン	横浜市	江口																			
16	り	まちに開いた交流の場デザイン	横浜市	江口																			
17		上星川プロジェクト	保土ヶ谷区	松行																			
18		YNU×TOYOTA/NISSANプロジェクト	横浜市	氏川																			
19		コットンおとなりさんプロジェクト	横浜市	関																			
20		Yokohama Univ City	保土ヶ谷区	三浦																			
21		キャンパスの魅力を開くプロジェクト	保土ヶ谷区	藤岡、大原																			
22		キャンパスUDプロジェクト	保土ヶ谷区	藤岡、大原																			
23		転倒しない街共創ラボ	神奈川県	島、大沼、他																			
24		岩手サステナブル・デザイン・プロジェクト	岩手県	船場																			
25		現代世界の課題の探索と協力の実践：結ぶくりPJ	鳥羽市	小林																			
26		和町いそいそプロジェクト	保土ヶ谷区	高見沢、佐土原																			
27	商	和町いそいそプロジェクト	保土ヶ谷区	高見沢																			
28	店	ワダヨコプロジェクト	保土ヶ谷区	野原																			
29		公共空間の活用とにぎわいづくり	保土ヶ谷区	秋元、藤岡																			
30	街	松原商店街バザール創造プロジェクト	保土ヶ谷区	田村、飯田、松行、志村																			
31		ほどがや「みちまち」プロジェクト	保土ヶ谷区	野原、藤岡、（藤岡、松行）																			
32		ハマの屋台プロジェクト	保土ヶ谷区	野原																			
33		コミュニティビジネスとワークプレイス	保土ヶ谷区	秋元																			
34		地域経済振興のための新ビジネスを考える	横浜市	松井																			
35		ガラスシティ・プロジェクト	川崎市	志村																			
36	地	ローカルなマテリアルのデザイン	横浜市	志村																			
37	域	市民活動を体験して考える協働型まちづくりPJ	横浜市	三輪、高見沢																			
38	産	おたクリエティブタウン研究	大田区	野原																			
39		かながわニューリズム	足柄地域	氏川																			
40	業	アーツコミッション・ヨコハマ・インターンシップ	横浜市	藤岡																			
41		地域起業型インターンシッププログラム	保土ヶ谷区	江口																			
42		販売現場から学ぶ店舗経営	横浜市	ダニエル・ヘラー																			
43		よこはまのかいしゃ魅力発見プロジェクト	横浜市	船場																			
44		アジア 横浜交流プロジェクト	横浜市/アジア	山崎																			
45		横浜ラテン・プロジェクト（YLP）	神奈川県/ブラジル	山崎																			
46	国	2008年「リーマン・ショック」と県下ブラジル人	神奈川県/ブラジル	山崎																			
47		鶴見区のブラジル人住民と多文化共生	神奈川県/ブラジル	山崎																			
48	際	留学生の地域交流と居場所づくり	保土ヶ谷区	門倉、秋元、長谷川																			
49	交	中国研修を通じた国際化対応人材育成プロジェクト	横浜市/中国	村田、子、白水、長谷部（英）																			
50	流	現代世界の課題の探索と協力の実践：ネパールPJ	被災地/海外	小林																			
51		移民・難民コミュニティと日本社会	神奈川県/海外	佐藤、小林																			
52		南米につながる子どもたちとの横浜「共生」PJ	横浜市/南米	藤岡、他																			
53		南米農村部での学びを生かした横浜「共生」PJ	横浜市/南米	藤岡、他																			
54		人と町・町と世界モダンコミュニティ開発PJ	横浜市	小谷谷																			
55		地域から現代経済にアプローチする	横浜市/神奈川県	中村（剛）																			
56	政	地域経済政策	神奈川県	中村（剛）																			
57		地域政策の数量的政策評価	横浜市	長谷部																			
58	策	数字で捉える地域経済	横浜市	長谷部、岡部、相馬																			
59		横浜市と市民生活白書を作ろう！	横浜市	居城、池島、相馬、他																			
60		データで捉える地域課題・地域経済	横浜市・神奈川県	佐土原、吉田、稲垣																			
61		電子マップで発見し協働する「ほどがや」	保土ヶ谷区	佐土原、吉田、稲垣																			
62	財	水を未来につなぐシステムづくり	神奈川県	金澤、高井																			
63	政	地域から水と大気を考えるエコプロジェクト	神奈川県	金澤、高井																			
64		まちづくりと地方自治	神奈川県	伊集																			
65		環境教育プロジェクト	保土ヶ谷区	井上																			
66		帷子川流域の自然活用化プロジェクト	横浜市	中村（栄）、原田																			
67		緑いきいき地域交流プロジェクト	横浜市	藤岡、大野																			
68		エコの芽を育てるプロジェクト@横浜	横浜市	田中、田村																			
69		横国エコキャンパスプロジェクト	保土ヶ谷区	中村（栄）、松本（真）																			
70	環	食を中心としたまちづくりプロジェクト	横浜市	井上																			
71	境	横浜地産地消推進プロジェクト	横浜市	井上																			
72		かながわ里山探検隊	神奈川県	小池（治）																			
73		都市の自然を楽しむライフスタイル	横浜市・神奈川県	小池（文）																			
74		アグリッジプロジェクト	横浜市・神奈川県	小林																			
75		アグリッジ商品開発プロジェクト	横浜市・神奈川県	池島																			
76		はまみらいプロジェクト	横浜市	吉田・松田・野原																			
77		再エネ経済循環	長野県	山崎（満）																			
78	教	保土ヶ谷まちづくり学習サポート・プロジェクト	保土ヶ谷区	木村																			
79	育	難学校との交流プロジェクト	保土ヶ谷区	中川（辰）																			
80		障害児の余暇活動の支援ボランティア	保土ヶ谷区	中川（辰）																			



Yokohama Univer-City(YUC)



キャンパスデザインとコミュニティ創出によって 「大学をまちに開く」 Open our university to the city, by designing for campus and creating communities.

“Yokohama Univer-City(YUC)”は、「大学をまちに開く」をテーマに始まった学生主導型プロジェクトです。都市圏の貴重な自然が保護された横国大のキャンパスでは、多様な人々による積極的な交流がなされています。YUCは、この魅力的な常盤台キャンパスを中心に新たなコミュニティの創出や空間デザインの提案・実践を行ってきました。大学から地域全体の価値を高めた先にあるものとして、“Univer-City”という言葉掲げています。

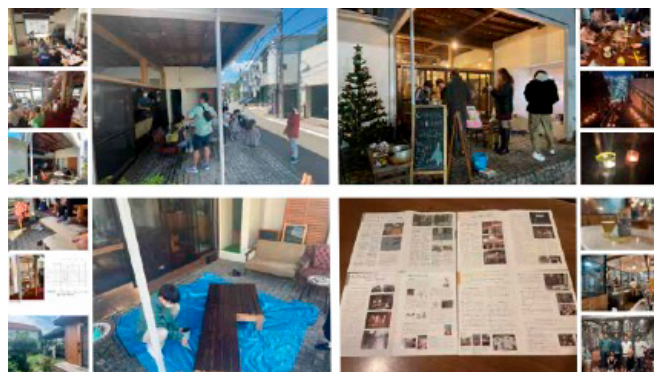
ほぼ全ての活動は、所属メンバーの自主的な企画・提案によって進められてきました。学内では、まちづくりで実用化されているプレイスメイキングの手法を用いたキャンパス空間の調査研究や、本・モノを介して見知らぬ人同士の繋がりを生む企画を実施し、大学の新しい利用法を提示しています。また地域連携では、常盤台連合町内会との便利マップの作成や、小学生向けのキャンパスツアーの開催などを行い、多世代の交流を実践しています。昨年度は常盤台連合町内会創立50周年記念式典での発表や、星川・天王町駅でのイベント「ホシテンフェア」への出店など、これまで築いたつながりをさらに深める機会を得ることができました。

今後は他の地域課題実習との連携の強化など学生同士のつながりを深めることはもちろん、地域住民や大学運営との連携・協力関係をより一層強固なものにしていきます。そのうえで企画の対象者を拡大し、キャンパスだけでなく横浜中心市街地などにも活動範囲を広げ、様々な企画を実践していく予定です。

- 学生数：20名 / 担当教員：三浦倫平
- 連携・協力：常盤台地区連合町内会/常盤台地区社会福祉協議会、共育会、NPO法人横浜コミュニティデザイン・ラボ、YADOKARI株式会社、下町編集室OKASHIほか
- 活動地域：横浜国大常盤台キャンパス周辺、都市科学部棟104スタジオ裏
- サイト：<https://104scape.wixsite.com/yokohama-univer-city>
https://twitter.com/104ura_pj_YNU



まちに開いた交流の場のデザイン -YOKOCO- Designing a place for exchange open to the community



住宅地の価値を上げる Increase the value of residential property

YOKOCOは野毛山公園の裏の住宅地に、二軒長屋を改修して2Fをシェアハウス、1Fを地域に開いた場にした「casaco」で活動しています。その場の使い方の提案や、運営者の了解がえられれば提案内容を実行に移し、エリアの価値向上を目指しています。

地域に開いた場をつくるため、完全ボランティアでもなく、「稼ぐ」ビジネスを立案するのでもなく、その中間の方法を模索しています。全国に広まりつつあるソーシャルビジネスの方法論の一端を、実践を通じて学ぶことを目標としています。今年度からはメンバーの1人が管理人として住み、より密接にカサコの活動に携わり、DIYや毎月出版している野毛山新聞の編集、その他イベントの運営などをしてきました。DIYでは、縁側や本棚を作った経験を元に、casacoから飛び出て近所の方のウッドデッキ制作が進行中です。野毛山新聞では先日関内に拠点を持つ横浜ビールに取材に行くなど、野毛山だけでなく関内やみなとみらいにまでその活動が広がりつつあります。イベントとしては12月に行われたキャンドルナイトの企画、運営に携わり、多くの地域の方々に参加して頂き地域交流拠点としての存在価値を改めて実感しました。

今後は、現在進行中出張DIYの施工を3月に行う予定です。また今年度はYOKOCOがCASACOにより密に関わり始めた最初の年でした。そのためそれぞれの活動が手探り状態で課題も多く見受けられました。来年度はこの課題をYOKOCO内で議論し合い、ただ伝統を継承したり不足を補ったりするのではなく、YOKOCOとしてCASACOに問題提起、提案を行います。

- 学生数：19名 / 担当教員：江口亨
- 連携・協力：NPO法人Connection of the Children
- 活動地域：野毛山、東ヶ丘
- サイト：<https://www.coc-i.org/>



ワダヨコ The wadayoko



ワダマチ×ヨココク 和田町と横浜国立大学を繋ぎます Wadamachi × YNU Connect Wadamachi and YNU

2010年に学生によって立ち上げられた団体であり、現在2番目に古参の地域課題実習です。活動初期より和田西部町内会、和田町商店街などと協力してイベントを実施し、和田町と大学を繋ぐ団体になるべく活動して参りました。当初は旧町内会館を1年間かけてリノベーションする団体として成立しましたが、その後旧町内会館を利用する中で街との交流が増え、今では「和田町の魅力を探し、周知する」ことを目標としています。

SDGsには、第11目標第5項の「災害によって命を失う人や被害を受ける人の数を大きく減らす」、第17目標第17項の「市民社会のパートナーシップをすすめる」において関連しています。前者は毎年7月に実施している「防災フェア」の、後者は、町内会や商店街、子供会、NPO法人といった団体と協力したイベントが多い性格上、ほぼ全ての活動の方針となっています。特に防災フェアについては、防災に関する研究も行われている都市基盤学科の学生が中心となり、如何にして地域の子も達に防災の知識を伝授し、災害時に身を守ってもらうかを考えました。

引継ぎ時には3年以下が2名しか居なかったものの、何とか人数を増やし活動して参りました。その結果、都市科学部だけでなく経営学部からも多数の学生が参加し、所属も意見も多角的なものとなりました。1月には地域課題実習交流会と題して様々な団体の所属学生と意見交換を行い、普段は関わらない学部や団体の方の意見も吸い上げる事が出来ました。今後も少人数団体ながらも多くの関係団体と関係を継続させ、和田町と大学を繋ぐ団体を目指して参ります。

■学生数：15名 / 担当教員：野原卓、(タウンマネジメント協議会において)佐土原聡、高見沢実

■連携・協力：和田西部町内会、和田町商店街、和田西部第一子供会、NPO法人居場所そら(実施出来たイベントにおいて直接関係した機関のみ記載)

■活動地域：和田町周辺(主に保土ヶ谷区和田)

■サイト：<http://www.wadayoko.com>

Twitter ID @wadayoko_tw / Instagram ID @wadayoko



ハマの屋台プロジェクト The YNU wagon project



地域性に沿った移動式屋台のあり方を探る Discovering the possibilities of Wagons along contexts of areas

ハマの屋台プロジェクトでは、まちの賑わいを生み出すツール「ほどわごん」の提案以来、活動地域の需要や状況に合わせた移動式屋台の製作と運用を行ってきました。

今年度は昨年度に引き続き、常盤台と関内の2チームに分けてそれぞれのフィールドで活動しました。関内・関外地区では、「日常に溶け込む屋台」をコンセプトとした新しいかんないわごんを9月から12月にかけて製作し、12月9日～12日に行われたZOU-NO-HANA FUTURE SCAPE PROJECTで初お披露目を行ったほか、学内やルミネ横浜、星天qlayなど様々なフィールドでの出展を通して新たなかんないわごんの今後の展開を検討しました。常盤台地区では、公園に定期的に出展し、子どもを中心とした地域との関係性を再構築しました。また、イベント開催や町内会イベントへの参加を通じて、屋台の様々な活用方法を示し、地域に使ってもらうことにも注力しました。

今後は、関内・関外地区においては、様々な形での出展を行う中で、新たなかんないわごんのコンセプトに沿った展開の可能性を探っていきます。常盤台地区では、地域との繋がりをさらに広げるとともに、常盤台をフィールドとする他団体とも連携し、地域へのアプローチを実践しながら検討していきます。

また、学内で使うことのできる新たな屋台の製作も検討しています。

■学生数：21名 / 担当教員：野原卓

■連携・協力：常盤台地区連合町内会、住好自治会、ゆたかないばしょ運営委員会、LOCAL GOOD YOKOHAMA、Circular Yokohama

■活動地域：常盤台地区、関内・関外エリア

■サイト：https://www.instagram.com/hama_yataipj/



サコラボ The sacolabo



国大生と左近山のコラボでミライをデザインします We design the future in collaboration with Sakonyama community.

相鉄線二俣川駅からバスで約10分の場所に広がる、「左近山団地」。商店街のお祭りや、小学生向けの地域イベントが毎月開催されるなど、豊富な地域活動が魅力です。そんな左近山の地域活動をさらに盛り上げつつ、教育や福祉・娯楽の充実、防災などに関するイベントを企画し、住民の方々と協働しながら地域課題に取り組んでいます。

メンバーの中には左近山団地に実際に居住しながら活動している学生もあり、通いで活動する学生とともに団地内外両方の幅広い視点からアイデアを生み、その実現に向けて動いています。今年度は、団地内部に新たなエンターテインメントを生み出すべく団地内部にて映画の自主上映を行う「団地映画祭」、お祭りなどの場をお借りして手作りの窯でピザを焼き、その窯を非常時の炊き出しなどにも役立てる「ピザ窯ワークショップ」、小・中学生と交流しつつ、勉強などさまざまな相談に乗り教育環境の充実を図る「さくら教室」、また地域の方々から不要になった本を集め、必要な方々に配布や貸出を行う「古本プロジェクト」などを行いました。

左近山団地の豊かな屋外空間や、意欲的な地域活動の魅力を多くの方々に広め、関係人口を増やし、また学生自身も左近山団地を「帰ってきたい居場所」と思えるようにしていくなど、左近山団地の持続的な発展に貢献していきます。

■学生数：25名 / 担当教員：藤岡泰寛
■連携・協力：NPO法人オールさこんやま(連携)、左近山ショッピングセンター・ケアプラザ(企画アドバイス等)
■活動地域：左近山団地(横浜市旭区)
■SNS：Twitter ID @sacolabo_danchi
Instagram ID @sacolabo.danchi2021_ facebook ID @sacolabo



New-New Town プロジェクト Project to find new value in New Towns



私の「得意」があなたの「楽しい」になる！ まちの教室 Your speciality can entertain the people of your town. We call it "Town Class".

私たちが活動フィールドとする相鉄線沿線の万騎が原地域は戦後神奈川県と相模鉄道によって開発されました。横浜駅や都心へのアクセスがよく、かつては人気の郊外住宅地でしたが、高齢化が進んだことでかつての活気が失われつつあります。私たちはかつて「New Town(ニュータウン)」と呼ばれた活気のある郊外住宅地を、新たな形で取り戻し「New-New Town」とすることを目標に活動しています。

今年度は、まちの皆さんの「得意」と「楽しい」をつなぎ、交流を生み出すことを目指して「まちの教室」を企画しました。まず、8月に学生が先生になる「万騎が原まちの寺子屋」を万騎が原地域ケアプラザで開催、11月に地域の方3人が先生になる「万騎が原まちの教室」を万騎が原中央商店街の空き店舗をお借りして開催しました。そして2/19(日)には「万騎が原まちの教室第二弾」を万騎が原中央商店街で開催予定です。また、11月に南万騎が原駅で行われた「みなまきピクニック」では子どもブースに出店し、地域の方とのつながりを増やしています。

まちの教室を開催すると、まちの先生は、自分の得意なことを発信できると共に様々な地域の方に出会うことができます。そして、まちの生徒は、地域に楽しい人や楽しいことがあると知り、地元により愛着を持つことが出来ると期待します。今後、New Town にまちの先生が増えることで、得意なことを共有でき、子どもから高齢の方まで多世代が活躍できる、より魅力的なまち「New-New Town」になると考えます。

■学生数：14名 / 担当教員：野原卓
■連携・協力：万騎が原中央商店会、(株) オンデザインパートナーズ、横浜市・相鉄グループ(相鉄いずみ野沿線 次代のまちづくり)
■活動地域：相鉄線二俣川駅から相鉄いずみ野線南万騎が原駅周辺
■サイト：<https://ynunewnewtown.wixsite.com/website>



コットンおとなりさんプロジェクト The cotton otonarisan project



高層マンション群の住民が おとなりさんと繋がることのできる居場所を To create a place where residents of high-rise apartments can connect with their neigh

現在、都心部への人口集中を背景に、マンションの増加が目立っています。また、高齢社会となっている日本では、住民間の助け合いが以前より一層重要になってきました。そこで本プロジェクトは、横浜市神奈川区にある「コットンハーバー地区」というタワーマンション群で、世代を超えて住民がつながることのできるコミュニティを作ることを目的に活動しています。

私たちは、2022年度、地域の団体や自治会と協力しながら、主に4つの活動を行いました。一つ目は地域ボランティアと協力して、CCTパークやプレイパークなど地域イベントの運営協力です。二つ目は活動の知名度を上げることを目的とした公式LINEの運営及び改善やチラシの作成などの広報活動です。三つ目は新しい地域ネットワークを形成するためのフリーマーケットの企画及び運営です。最後に、四つ目は、有事の際に備えて、地域住民の防災リテラシーを高めることを目的とした防災情報の発信です。

2022年度は、2021年度より進めていた広報活動の体制をある程度形にすることができました。他方で、防災情報の発信やフリーマーケットの企画及び運営などの新しい活動が始まりました。2023年度は、学生提案型プロジェクトに变身して、地域イベントの運営協力や広報活動を行いながら、新しく始めた防災情報の発信やフリーマーケットの企画及び運営などの活動に注力する予定です。

- 学生数：9名 / 担当教員：関 ふ佐子
- 連携・協力：CCT・各自治会・防災を考える会
- 活動地域：コットンハーバー地区（横浜市神奈川区）
- サイト：<https://cottonct.org/>



南米農村部での学びを生かした 横浜『共生』プロジェクト Yokohama "Symbiosis" Project utilizing Learning in South American Rural Areas



笹山団地内に新たな子どもたちの居場所づくりを Making new common space for children in Sasayama apartment

笹山団地は築58年目を迎え、2025年（予定）には建て替えが計画されています。この団地には高齢の方々に加え、外国籍の方も居住されています。子どもたちと高齢者の方々、高齢者の方々と外国籍の方々の交流が少ないという課題があり、地域課題実習として2020年度より笹山団地において調査活動を開始しました。笹山自治会や笹山地区社共、地域の保育園、神奈川県、横浜保土ケ谷社会福祉協議会、地域住民、NPO関係者との話し合いを重ね、2021年度には自治会館に机・椅子を設置させて頂きました。2022年度よりNPOや民間企業と連携するとともに、地域の農家の方々の協力を得て、笹山団地とその周辺に住む子どもたちを対象に、「子どもの居場所づくり」と学習支援+お弁当の提供を開始しました。

活動場所は NPO 法人より提供を受けている笹山団地59号棟102号室（38平米）であり、「えんぴつルーム」という名称としました。笹山団地やその近隣に住む子どもたち（含む不登校の子ども）が、①遊びや勉強など自分達のやりたいことを気軽に行うことのできる居場所づくりを提供し、②横浜国立大学の学生他が子どもたちへの食事支援（お弁当提供や軽食提供）を行い、③学習支援も行っている。また、④フードロスなどについて考えたりする学びの場も提供しています。以上を通し、学年を問わず地域の子どもの受け入れることで開かれたコミュニティの空間を提供しています。2023年度は、月1回の活動を2回に増やし、より地域に密着した活動を展開する予定です。

- 学生数：19名 / 担当教員：藤掛洋子
- 連携・協力：認定特活ミタイ・ミタクニヤ子ども基金、横浜市保土ケ谷区社会福祉協議会、県営笹山団地自治会、笹山地区社会福祉協議会、神奈川県、渡邊敏彦様、日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社、株式会社ジャンボリア、日本ウイナー株式会社、保土ケ谷区子ども福祉支援課、笹山保育園、上菅田地域プラザ
- 活動地域：笹山団地59号棟102号室
- サイト：<https://www.facebook.com/ynu.mitaitakunai>



鶴見区のブラジル人住民との多文化共生 Multi-Cultural Co-living with Brazilian Residents in Tsurumi Ward



左上 2022年度NPOの朝ドラ「ちむどん」でも盛り上がりましたが、沖縄物産センターもあります。
右上 入船小学校での宿題支援活動（算数と国語）で、「つるみーにょ」という活動名がついています。
左下 ブラジル料理店もありますが、ペルー料理店もあります。
右下 外国つながりの中学生とご両親にきていただいて、高校進学ガイダンスを開催しています。

外国つながりの小学生への学習支援と すべての住民が気軽に行けるたまり場づくり Educational assistance to elementary school children with roots in foreign countries and creation of a casual gathering space for all residents through activities of multi-cultural co-living

1990年の入管法の改正で新たに定住者という在留資格がもうけられ、日系ブラジル人の3世の方々が渡日し始めました。その後急増して、2008年のピーク時には30万人ほどに達しました（家族を含む数）。この年の世界的経済危機（いわゆるリーマン・ショック）の影響で、多くは失職されブラジルに帰国されました。現在は20万人強です。経済危機後も残られた方をふくめて最近の滞在者は永住権を取得されたりして、長期滞在の方がふえ、子どもたちを含めて、日本社会への統合が重要課題です。そこで大事になるのが日本語の獲得で、私たちはブラジル人を含めた外国つながりの子どもたちへの学習支援（国語と算数）に取り組みました。具体的な目標としては、高校進学率と大学進学率を少しでもあげたいと考えています。

活動内容は、月2～3回ですが、火曜日の午後、市立入船小学校での宿題支援に2時間弱取り組みました。これは鶴見区駅前に本部事務所があるNPO法人ABC Japanの活動支援という形で、実施しました。横浜市にボランティア登録をします（学生には交通費支給あり）。ABC Japanは、代表のミチエ・アフソさんがブラジルの最高勲章と日本の外務大臣賞を受賞するなど、内外で高い評価をうけている団体で、JICA横浜センターとも協働（co-production）しています。

ABC Japanは、多文化共生活動にあつまる日本人をふくめて、国籍をとわず住民のたまり場となることをめざしています。外国人支援が充実しているコミュニティは、日本人にとっても暮らしやすく、働きやすく、生きやすい街だろうと思います。外国人と日本人が区別なく、子育てがしやすい、みんながほがらかに暮らせる街作りを、鶴見区で展望しています。

- 学生数：3名 / 担当教員：山崎圭一
- 連携・協力：NPO法人ABC Japan
- 活動地域：横浜市鶴見区
- サイト：<https://www.abcjapan.org/>



転倒しない街共創ラボ No Falling Down City Co-Creation Lab



誰も転ばない街を技術と対話で創造する ～みんなの力で役立つ技術に～ Creating a city where no one falls down with technology and dialogue - to useful technology with cooperation -

転倒しない街共創ラボ（こらぼ）は、高齢者の転倒防止技術の社会実装を通じて転倒しない街を実現することを目的として2022年度に創設されたプロジェクトです。「市民や利用者と一緒に、暮らしを豊かにするためのサービスやものを生み出したり、改良することを目指した新しい地域・社会活動」であるリビングラボの枠組みを援用し、多様な参加者との対話を通して、技術開発の方向性や社会への導入の方法を模索します。

2022年度は相模原市立市民・大学交流センターであるユニコムプラザさがみはらを活動拠点として、周辺地域の方々に対して転倒防止・転倒リスク測定技術の体験・対話会（リビングラボ）を5回開催しました。転倒リスクを実際に計測した上で技術に対する期待や不安感などをディスカッションしたほか、測定情報の提供方法や情報の活用をめぐる課題の聞き取りや整理を行いました。また、ユニコムプラザさがみはら主催「第9回まちづくりフェスタ交流展示会」にも出展し、転倒リスク測定法やリビングラボの取り組みについてポスターや動画の形で情報発信に取り組みしました。

来年度もユニコムプラザさがみはらを拠点の一つとして、リビングラボを定期開催する予定です。また、他の地域への展開や潜在的な利用者を支援する立場にある方を対象とした対話の実施を検討しています。引き続きリビングラボを通して、当事者の視点を重視した技術のあり方やその社会実装の将来像の創出を目指して参ります。

- 学生数：10名 / 担当教員：島圭介、大沼雅也、田中稲子、下野誠通、藤岡泰寛、坂田実、小林知恵ほかBSD拠点教員
- 連携・協力：公益社団法人相模原・町田大学地域コンソーシアム
- 活動地域：相模原市立市民・大学交流センター ユニコムプラザさがみはら
- サイト：<http://bsd.ynu.ac.jp/index.html>



キャンパスUDプロジェクト The Campus UD Project



「みんなが楽しんで通れるみち」を考える
The path that everyone can walk on comfortably and enjoyably.

私たちは車いすユーザーも、そうでない人も大人も子供もみんな一緒に心地よく過ごすことのできる空間づくりに取り組んでいます。今年度は横浜国立大学のローソン前のスロープが「みんなが楽しんで通れるみち」になるようなデザインを考えました。

今年度は主に次のことをしました。

- ①立て看板の撤去…看板のせいで使いにくいという声があったので撤去するようお願いしました。
- ②花壇の整備、植え付け…以前は花壇の雑草がスロープにはみ出しており、通りにくい状態でした。花壇にウッドチップを撒くことで雑草が生えるのを防ぎました。また、これまでに12種類の季節に見合ったお花やハーブを植え、美しい花壇を目指しました。
- ③ガーランドの設置…クリスマス前にガーランドと小規模なイルミネーションを設置しました。楽しそうと思わず通りたくなるようにデザインしました。

花壇の整備、植え付けによって周辺地域の方々から、「通りやすくなった。」「きれいになった。」などのお声をいただきました。今後も様々な団体と協力して、スロープとローソン前の広場をもっと心地よく過ごせる空間にしていきたいと考えています。現状の課題として、スロープ前の放置自転車があります。スロープを使う人の悩みの一つなので、放置自転車を減らしていけると考えています。「放置禁止」などと訴えるのではなく、自然と置かなくなるようなスロープ周りのデザインを考えていきたいと思っています。

■学生数：5名 / 担当教員：藤岡泰寛
■活動地域：横浜国立大学 常盤台キャンパス
■サイト：<http://shisetsu.ynu.ac.jp/gakugai/shisetsu/>
<https://www.shougai-support.ynu.ac.jp/index.html>



モビリティ・デザインの実践 Mobility design in practice



モビリティ（移動のしやすさ）の観点から
都市をより魅力的に
Making cities more attractive from a mobility perspective

モビリティ・デザインの実践は、モビリティ（＝移動のしやすさ）のあり方に注目し、まちの魅力を高めるために課題の提案や社会実装に向けた活動に取り組んでいます。神奈川県内で活動するカウンターパートナーの皆様とともに社会実装に取り組むことが特徴です。

2022年度は総勢28名のメンバーが、4つの班に分かれて活動を行いました。みらいの地図班では、LocalIST株式会社様のご協力のもと、横浜国立大学を利用する皆様に大学での活動をより魅力的にする賢い案内地図アプリを目指し、学生を中心にデジタルキャンパスマップ「Y's navi(ワイズナビ)」の開発を行いました。MaaSでまちづくり班では、株式会社アットヨコハマ様の運営するMaaSアプリ「my route」に対し、学生がみなとみらいの観光をより楽しめるような企画チケットの提案を行いました。村岡新駅班では、10年後に開業予定の村岡新駅周辺のまちの姿や人々の生活を描き出すために、小学生や中高生を対象にしたワークショップイベントを藤沢市とともに開催しました。京急富岡班では、地域のまちづくり団体とともに地域のイベントである「おかまちひろば」の企画運営、乗合型移送サービス「とみおかーと」の利用実態の分析とデザインの企画、地域の空き家を活用した拠点づくりに取り組みました。

来年度はこれまでの活動を継続しつつ、他の班や連携先の皆様との連携・協力関係を強化し、より移動のしやすい魅力的な社会の実現に向けて取り組みます。

■学生数：28名 / 担当教員：有吉亮、西岡隆暢
■連携・協力：LocalIST(株)(YNU発ベンチャー)、京急電鉄(株)、アットヨコハマ、横浜市、藤沢市
■活動地域：神奈川県横浜市(みなとみらい地区、横浜国立大学、富岡地区)、藤沢市
■サイト：<http://www.rcsm.ynu.ac.jp/>



よこはまのかいしゃ魅力発見PJ The attractiveness of local business forms



地元企業と学生の交流を活性化 Promote academic-industrial partnership in Kanagawa

地域に根差して事業活動をする企業と横浜国立大学の産学連携を深めることを目標に、『横浜イノベーション研究会』と協働し、各企業の情報を学生に周知する活動を行っています。学生メンバーは様々な業界の企業取材し、隠れた魅力や創業者・働く人たちのリアルを肌で感じとり、自身の将来像を描くヒントにします。初年度は『横浜イノベーション研究会』所属企業の皆様と手を取りあい、情報発信の場を設け、プロジェクトの活動基盤を整えることを一年間の目標としました。

若者への情報発信媒体として SNS が最も身近なものであると考え、Instagram や Twitter での広報を中心に活動しました。今年度は鈴廣かまぼこ株式会社様、株式会社アルプス技研様に訪問し、その魅力を学生目線で、学生に向けて発信しました。また『横浜イノベーション研究会』の交流会に参加し、私たちの活動を紹介しました。一年目ということもあり、企業、大学、学生側も手探りの状況であることに加え、感染症の拡大などの困難もあるなかで、直接お話を伺えたのは二つの企業だけでしたが、魅力の発見と発信につながりました。

今後は今年度の活動を継続しつつ、神奈川・横浜地域の企業・各団体と手を携え、地域に新たな提案をおこない、その実現に向けて互いに知恵を出し合う環境づくりに力を入れます。私たちの取り組みが地域課題実習全体の活動領域を広げるだけでなく、将来的には大学の共同研究や受託研究の実施、人材育成での相互協力、新規事業立ち上げ支援等においても貢献できると考えています。

- 学生数：6名 / 担当教員：船場ひさお
- 連携・協力：横浜イノベーション研究会
- 活動地域：神奈川・横浜地域
- サイト：@ynucompanyj(Twitter)
@ycp_corporationlab (Instagram)



おおたクリエイティブタウン研究会 The Ota Creative town research project



モノづくりのまちづくり～工場のまちの魅力を次世代に継承する～

Town planning utilizing manufacturing
-Passing down the charm of the factory town to the next generation-

大田区は中小の町工場が日本一集まる街として、工場を中心に地域のコミュニティが形成されてきました。しかし近年、後継者不足などで工場が廃業、その跡地に住宅が建て替わり、地域外から移り住む人が増えています。その中で工場と住民の関係希薄化や、工場数の減少による街の個性の消失が危惧されています。そこで私たちは「工場と住民が良好な関係を築き、誰もが気軽にモノづくりを楽しめる街」を目指し、モノづくりを活かしたまちづくりに取り組んでいます。

今年度は工場の外観調査とおおたオープンファクトリー(OOF)の学生企画に取り組みしました。外観調査では、下丸子地区にある150もの工場の3Dモデルを作成しました。OOFとは町工場を一斉公開し、モノづくりの技術や職人と触れ合える地域のイベントです。私たちは学生企画としてOOFに参画し、一部他大学と協働しながら、来場者の方に大田のモノづくりのいまと昔を知ってもらえるような展示企画を考えました。具体的には、いまあるこの地域ならではの特徴的な景観がわかるパネルの展示や、まちの変遷を体感できるガリバーマップの展示、来場者の方が気軽に会場に足を運んでもらえるようにカフェワゴンの設置などを行いました。当日は小学生からシニア層までおよそ250人もの方々が来場する盛況ぶりでした。

今後も、活動を継承・発展させながら、地域住民が日常的に街の魅力を感じられる「地域への浸透」や、他団体とも連携し大田区全体へ「活動規模の拡大」を図っていきます。

- 学生数：7名 / 担当教員：野原卓
- 連携・協力：一般社団法人おおたクリエイティブタウンセンター、一般社団法人大田観光協会
- 活動地域：東京都大田区（東急多摩川線武蔵新田駅・下丸子駅周辺を中心に活動）
- サイト：<https://www.o-2.jp/mono/oof2022/>



データで捉える地域課題・地域経済2022 Analyzing regional issues and economics by data in 2022



経済的な観点から見た社会の課題や現状 Current state and issues of society from economic perspective

当プロジェクトでは、各グループに分かれ、地域の各アクターとの連携も行いながらプロジェクトを運営してきました。多様な研究が行われている中で、様々な成果が出ており、それらを中間報告会や最終報告会の中で共有し、それぞれ持ち帰って意見交換をしながら進めています。

池島グループでは、地域における食の循環を測定するため、食品廃棄物の発生量やその再生量を調査するとともに、観光地における特定産業の偏重からの脱却にむけて、複数地域の産業構造の把握やソーシャルビジネスを通じた経済循環の実態を追究してきました。居城グループでは、障害者雇用やYouTuber、あま市の合併、織物産業が盛んな桐生市の和装離れ、江ノ島電鉄の沿線住民優先乗車、プロサッカー、独立リーグ、プロ野球の試合やキャンプが与える地域への経済効果などについて、各自で興味のある分野を設定し、調査を進めてきました。相馬グループでは、将来に重要な影響を及ぼす未就学児教育に携わる保育士の待遇改善を、保育士不足の面から分析・考察してきました。また、その後の人生に影響を及ぼす子供の頃の体験での格差を生まないために、保育園・地域の観点から体験格差問題についても考えてきました。

今年度の研究によって、様々な角度から社会の現状や課題を見ることができ、今後の研究の幅を広げることができました。来年度以降の研究では、今年度の研究で得られた結果、経験等を活かし、各グループで連携しながら取り組むことでさらに良い研究につながると考えています。

■学生数：32名 / 担当教員：池島祥文、居城琢、相馬直子
■連携・協力：横浜市政政策局 関口昌幸様



再エネの地産地消を軸とした 循環型地域経済のデザインPJ The Circular Eco Project



循環経済 × 循環資源 Circular Economy and Ecology

地域経済循環の停滞が進む中、その解決に向けてエネルギーや地域資源が大きな鍵となります。そこで私たちは、再生可能エネルギーや地域資源の地産地消を軸に、資源・人・サービスが『地域内で循環する』システムをデザインし、地域経済の活性化を目指します。

まず最初に、目的を『地域内経済循環』、手段を再生可能エネルギーに限ることのない地域資源と定義し、6~9人ずつ4チームに分かれ、本年度活動を行いました。昨年度に引き続き、富山県南砺市エコビレッジ推進課と連携し、南砺市世界遺産五箇山で開催される「相倉合掌造り集落ライトアップ」のイベントの一部企画等を行った、再生可能エネルギー木質ペレットによる『地域内経済循環』チーム。静岡県川根町を舞台に、現状の茶農家と若者とコンタクトを取り、課題の調査や分析、提案等を行った、地域資源である川根茶による『地域内経済循環』チーム。横浜市南部市場を舞台に、3つの地産地消イベントで一部企画等を行った、横浜野菜による『地域内経済循環』チーム。茨城県行方市と連携し、イベントを1から企画するなどを行った、サイクリングによる『地域内経済循環』チーム。

来年度も各地域で活動を持続させ、イベントを拡大し、地域内経済循環を広げて参ります。

■学生数：36名 / 担当教員：山崎満広
■連携・協力：南砺市エコビレッジ推進課、Mitsu Yamazaki, LLC、ジソウラボ、横浜おいしんぼエンジェル、行方市事業推進課、霞観光株式会社、川根本町、株式会社グルファ
■活動地域：富山県南砺市、静岡県川根町、神奈川県横浜市、茨城県行方市
■サイト：<https://circular-eco.wixsite.com/website>



SSUI-yokohama PJ Students' Society for Urban Issues



学生が主体となり 横浜のまちづくりについて学び・考える Students take the initiative in learning and thinking about urban development in Yokohama

SSUI-yokohama PJ では、「これからのまちづくりの主役は学生であり、そこに分野の制約があっても構わない」という考えのもと、大学生・大学院生が大学や分野の枠を超えて集まり、横浜のまちづくりについて学生が主体となって考え、提案を行っている。課題発見から解決策の提案まで一貫して行うことで、講義や演習の中で十分に培うことのできないプランニングマインド感覚を身に付けることを目的としている。

本演習ではメンバー全員でテーマを創出し、班単位で活動を行っている。2022年度は、自分、地域、行政、企業の視点で自分なりに理解し、議論しながら、まちづくり活動を行った。月2回程度 Web 会議や調査を行っている。

- ・自分：メンバーで「まちづくりを学ぶ機会の創出」に関して企画を出し合い、港北ニュータウンを設計に携わった方と一緒にまちあるきを実施した。
- ・地域：地域拠点「さくら茶屋」を活用したこれからの拠点の運用方法について、学生の立場として、意見や課題の創出などを行った。また、地域交流を目的として、スマホ教室やヨココネット様とのコラボしたイベントを開催した。
- ・行政：昨年引き続き、国交省より危険なバス停とされている「釜台住宅第一」を対象に、周辺の公園を活用した改善策を検討した。また、横浜市の「まちづくり支援団体」として、地域のまちづくりを支援する活動を行った。
- ・行政：地産学チャレンジプログラムに参加し、神奈川中央交通株式会社の課題に対し、解決策を提案し、最優秀賞を受賞した。

■学生数：10名 / 担当教員：尹 莊植

■連携・協力：横浜市都市整備局、LLP まちテラス、西柴シェアオフィス研究会

■活動地域：横浜市保土ヶ谷区常盤台、金沢区西柴

■サイト：<https://sites.google.com/ssui.info/ssui/home>



はまみらいプロジェクト The Hamamirai Project



みらいへの架け橋を創る、ハマのオールラウンダー We are the all-rounder to create the bridge to the future of YOKOHAMA

はまみらいプロジェクトは、海洋都市横浜の街づくりに関する UDC-SEA の活動理念を元に創設されました。横浜を学生の立場からより良い都市にすることを目的とし、海沿い地域をフィールドに、魅力の発信・課題の改善に取り組んでいます。

2022年度は総勢35名のメンバーが、4つのチームに分かれ活動しました。UDC-SEA 連携チームでは、うみはまっぷを作成し、またその活用方法として、うみはまっぷ収録エリアが舞台のすどろく作成を行いました。YCVB 連携チームでは、8月に横浜コンベンションビューロー（YCVB）、株式会社ジョピア、日能研の皆さんと共に、小学生対象の水耕栽培を題材としたSDGs 企画を行い、11月にイベント学会で発表しました。今後は、UDC-SEA 連携チームと協力して、ブルーカーボンが題材の企画も考えています。防災チームでは、防災意識の啓発を目指して Twitter アカウント「はまみらい防災室」や HP の運営・管理を行いました。HP チームでは、PJ 全体の HP の運営、管理を行うとともに、象の鼻テラスが主催する FUTURE SCAPE PROJECT 2022 に参加しました。「つなぐ透明テント」と題して壁のないテントを製作し、パイプ電話や連想絵しりとりといった来場者も参加できる作品を出展しました。チーム活動の他にも、各自が自然環境・観光・防災・エネルギーのテーマに分かれて活動を行い、記事を作成しました。

来年度も今年度の活動で得られた経験や人々とのつながりを生かして、横浜の街をよりよい街にできるよう活動していきます。

■学生数：36名 / 担当教員：吉田聡、野原卓、松田裕之

■連携・協力：UDC-SEA、公益財団法人 横浜観光コンベンション・ビューロー、公益財団法人横浜市資源循環公社、横浜市、横浜みなと博物館、Yocco18

■活動地域：横浜海沿い地域

■サイト：<https://hamamirai.localinfo.jp/>
https://twitter.com/hamamirai_bosai
https://twitter.com/yoko_hamamirai



島プロジェクト in 鳥羽 ～現代世界の課題の探索と協力の実践～ Island Project in Toba -Discovering the Challenges of the Modern World and Practicing Cooperation-



三重県の答志島をフィールドに、 島民と一緒に島の未来を創ります！ Creating the future of Toshi-jima together with the residents!

当団体は、三重県鳥羽市にある離島をフィールドにして未来の島の在り方をそこに住む方々と一緒に模索していくプロジェクトで、今年度から活動を始めました。島の基幹産業でもある漁業や観光業、または教育や建築など参加メンバー各々が興味を持った切り口から「島」というフィールドを捉え、実践的な学びを得られました。

今年度の活動内容としては、まず5月に数名が渡島して答志島の基幹産業である漁業と観光業に着目した現地調査を行いました。特に漁業に関して、ワカメの芯抜きという作業を実際に手伝ったことで課題を実感できました。9月には殆ど全員が渡島し、島の課題について一緒に考えるワークショップや子供達とのドッチボール、パフェ作りなどを行い、幅広い世代や属性の方々との交流ができました。10月以降は、地域住民と観光客・学生の交流を目的としたウッドデッキ制作班、漁業の諸課題を観光を活用することで解決を図る観光×漁業班、島の中で立場の弱い人に寄り添う島の保健室カフェの3つのグループに分かれて活動をしています。

今年度は現地での活動を進めるに当たって、島プロジェクト創成期からご協力いただいている地域おこし協力隊で弊学OBの正林様、鳥羽市議会議員の濱口様をはじめ多くの方にご協力いただきました。今年培った島民の方々との信頼関係を来年度以降の活動に繋げていくことに加え、同じく答志島をフィールドとして活動する他大学の学生との交流を積極的に行い、新たな協力関係を構築していきます。さらに将来的には、答志島での活動に留まらず鳥羽市内の他の離島にも活動のフィールドを広げていけるようにしていきます。

- 学生数：14名 / 担当教員：小林 誉明
- 連携・協力：鳥羽市地域おこし協力隊 正林泰誠様、鳥羽市議会議員 濱口正久様、鳥羽市、その他答志島の住民の皆様
- 活動地域：答志島（三重県鳥羽市）
- サイト：https://twitter.com/shimapj_toba,
https://www.instagram.com/shimapj_toba/



岩手サステナブル・デザイン プロジェクト The Iwate Sustainable Design Project



自然豊かな土地「いわて」で働き、 暮らす人々とかわる Communicate with people who work and live in "Iwate", the area rich in nature.

岩手サステナブル・デザイン・プロジェクト、通称「岩手らば一ず」は、横浜で学ぶわたしたちにとっては地理的・文化的に異なる点の多い、岩手県や東北地方のさまざまな地域・企業・団体へ直接赴き、岩手での独自の取り組みや、横浜と共通する地域課題などを発見・理解することを目的として、今年度新しく設立されました。

今年度は、今後の活動の基盤を作るために、「岩手を知り、岩手とのつながりを形成する」ことを目標として、夏期には岩手各地にメンバーが分かれて訪問しました。酪農で有名な岩泉町、葛巻町、漆の産地である二戸地域、それぞれ3カ所の地域志向型インターンシップでは、役場でのデスクワークから、畜産や林業の体験まで幅広く仕事を経験しました。さらに、これらのインターンシップでは、各地域の観光地を見学したり地域の方と仕事外で直接お話ししたりする機会もあり、岩手で働きながら暮らすことの魅力や課題を実感しました。他にも、県庁所在地の盛岡市や宮沢賢治の故郷でもある花巻市、同じ東北地方で秋田県南部にある雄勝郡羽後町などで取材を行い、同じ東北地域でも、市街地か農村かどうかや主要産業の違いによって異なる課題があることをメンバー内で共有しました。これらのインターンシップやフィールドワークを経て、11月に大学内で行われた「横国 Day」にて、活動内容や岩手の魅力を学内外の方に発信するためのパンフレットやポスター、動画を作成しました。

3月には大船渡・陸前高田で津波の被害を受けた土地に椿を植えるプロジェクトに参加する予定です。来年度は、これまでの活動を継続しつつ、大学祭等での企画運営や学外での発信活動等を積極的に行っていきたいです。

- 学生数：10名 / 担当教員：船場ひさお
- 連携・協力：岩手県、岩泉町、葛巻町、二戸市、一般社団法人 KEEN ALLIANCE、一般社団法人レッドカーペットプロジェクト、株式会社Wakey、二戸地域雇用開発協会
- 活動地域：岩手県、東北地域等
- SNS：Instagram ID @iwate_sustainable
Twitter ID @iwatelovers





みなとまちプロジェクト The Port City Project



清水の歴史文化に関わる地域資源のブランディング Branding Shimizu's history with local resources.

みなとまちプロジェクトは、横浜と同じ港町である静岡市清水区の歴史文化に関わる地域資源をブランディングするために活動を行っているプロジェクトです。清水は横浜と同じ国際貿易港であり、近年ではクルーズ船の寄港地にも選ばれ、国内外から多くの観光客が来ていますが、清水を経由して他所へ観光に行く人が多い状況があります。そして、清水はマグロや日本平、松原が有名ですが、他にもお茶や茶箱、清水次郎長や、倉庫などの魅力的な地域資源があります。そこで、横浜の学生という外部の視点からまちづくり活動をしています。

今年度は、2019年度末より始まったコロナ禍により活動を自粛傾向であった現地での活動を少しずつ再開しました。例えば、お茶農家さんのもとで茶摘みや茶刈り、手揉みや製茶を体験することで、お茶を製造・販売するだけでなく、伝統的なお茶についての理解を深めました。また、かつてお茶の管理や輸出に使用されていた茶箱をモチーフにしたベンチを常葉大学と協力して制作しました。常盤祭ではベンチを設置して使用感などの感想をいただき、また横浜の大学内外でお茶の販売しながら歴史ある有機栽培茶について知ってもらう機会を創出しました。さらに、現地の研究者に会い、清水の発展に寄与した港湾や倉庫蔵に活用された石材についての理解を深めました。

今後の展望としては、清水の地域資源の活用方法や、街の誇りとなるような地域資源の実用方法について継続して研究するとともに、コロナ禍により休止していたクルーズが再開したため、2020年度以前に行っていた日本国外の観光客をターゲットとした地域観光施策の研究も再開していきます。

■学生数：17名 / 担当教員：志村真紀

■連携・協力：常葉大学、東京大学、九州大学、茨城大学、静岡理科大学、静岡市経済局海洋文化都市推進本部、静岡県清水港管理局、ぬくもり園、次郎長と港を活かした清水活性化協議会、伊豆石文化探究会

■活動地域：静岡県静岡市清水区

■サイト：<https://www.ynu-minatomachipj.com/>



ローカルなマテリアルのデザイン The Design of Local Materials



広葉樹を用いた家具・スツールの製作 Designing furniture and stools with broad-leaves trees

現在日本の林業は衰退を続けており、それに伴い我々の身の回りでは放置林が増加しています。この放置林の大半を占めているのが広葉樹ですが、広葉樹の木材は固く重いため加工が難しく、木材としての需要が低いです。本プロジェクトではこの広葉樹をどのように利用していくかを考え、広葉樹を用いた制作活動を行い広葉樹の可能性を模索してきました。

本プロジェクトでは、地元の広葉樹を用いたベンチ・スツール等の製作を行いました。春学期は、昨年度から引き継がれた作品の仕上げに加え、各メンバーが1つずつベンチやスツール・家具をデザインし、担当教員のサポートを受けながら製作・完成に至りました。製作過程では、木材の柔らかさや木目の入り方など、木材ごとに異なる特徴を把握した上で、自身の製作物のデザインとの調和を思索しました。秋学期は新たに、羽沢横浜国大駅前への建設が計画されている、横浜国立大学サテライトキャンパスにて使用するスツールのデザイン・製作を行いました。デザインは、サテライトキャンパスの完成イメージなどの参考資料を見ながら、その場の雰囲気にあったものを検討しました。また公共の場に置かれるため、足のデザインを共通化した上で、台座は広葉樹の個性が現れるようあえて整形しないなど、地元の広葉樹を活用するというプロジェクトの目的に沿って製作を行いました。

近年では都市の緑化が推進されています。このような取り組みが浸透していけば、街に住んでいる人々もローカルなマテリアルについて考える機会が増えると考えています。

■学生数：5名 / 担当教員：志村真紀、原口健一

■連携・協力：(株)木材工房あしがら

■活動地域：横浜国立大学キャンパス内/羽沢地区/神奈川県

■サイト：instagram：タグ「#ローカルなマテリアルpj」

キャンパスの魅力を耕すプロジェクト Cultivating Campus Attractions Project



キャンパスの資源「土」を使ってつくる 地域と学生の交流の場

Creating spaces for interaction

between community and students using the "soil" on campus

横浜国大のキャンパス内には土や雑草、竹や廃材などの素材や、使われていない場所など隠れた魅力が溢れています。当プロジェクトはそんな魅力を建築的にカタチにし、活かしていくために発足されました。キャンパス内では近隣の方の姿もよく見かけます。大学が学生のみならず、まちに開かれた空間になることを目指し活動しています。

キャンパス内から土を集め、Y-GSAの学生やワークショップに参加してくれた方々と協力しながら、その土でキャンパス内に学生と地域の方々が交流できる場所をつくっています。土という素材はさまざまな加工ができ、空間づくりにおいて大きな可能性を持っています。今年度は日干しレンガにしたり、版築(はんちく)という工法に挑戦してみたりしました。プロジェクト発足初年度の今年は、この2つの加工法を用いたベンチと、看板的な用途を持ったキューブ状の造作物を野音につながる建築学科棟の横のスペースにつくりました。土ならではの素材感や、有機的なデザインがとても親しみやすいものになりました。大学内の資源「土」を耕し、学生にとっても地域の方々にとっても居心地のいい空間に生まれ変わらせることを考えてデザインしています。

作業中、野音に訪れた地域の方々との交流があり、興味を持っていただけました。ワークショップなどの活動に積極的に地域の方々を誘い、一緒に場所づくりが行えたらと考えています。また、土のう(アースバッグ)を用いた新たな工法にも挑戦中です。

- 学生数：8名 / 担当教員：藤原徹平
- 連携・協力：Y-GSAインディペンデントスタジオ
- 活動地域：横浜国立大学キャンパス内
- SNS：Instagram ID @ynucampuspj

都市の自然を楽しむライフスタイル The Lifestyle to Enjoy Nature of the City



ドングリを拾って美味しく食べてみよう Let's Eat Acorns Around You!

都市化が進む中で、身の回りの自然が減少しています。それに伴って、身近に自然を感じ、利用する機会も減少しています。そこで、大学周辺をフィールドにして、都市生活者が日常的に身近な自然を楽しむライフスタイルを設計できるように提案し、普及させることを目的としてイベントを開催しました。

今回のイベントは、2022年10月29日土曜日に「ドングリパンを作ろう!」というテーマで実施しました。大人から子どもまでを対象とし、幅広く参加者を募集しました。ドングリパンを作るというのは初めてであったため、インターネット上の情報を頼りに試行錯誤しながらレシピを完成させました。当日は、学祭などの影響で参加者が1名となってしまいましたが、参加者に食用に適したドングリについてレクチャーしながら、大学内に落ちている「スダジイ」というドングリを一緒に集め、その後、パンを作っていました。パンの一次発酵の間には、ドングリクイズを実施し、楽しみながらドングリについての知識を深める時間を設けました。また、二次発酵中は、アーモンドチョコレートにトッピングをした「ドングリチョコレート」を作り、子どもでも簡単に楽しめるワークショップを行いました。

今回はさまざまな要因が重なって思うように集客することができませんでしたが、今後は、より早くからチラシなどを作成し、さまざまな媒体を用いて広く周知できればと思っています。また、新型コロナウイルスの影響でイベントの回数が1回のみとなってしまいましたが、来年度からは1年を通して、イベントを実施していこうと考えています。

- 学生数：2名 / 担当教員：小池文人
- 活動地域：横浜国立大学内及び周辺
- サイト：<http://vege1.kan.ynu.ac.jp/lifestyle/>



アグリッジプロジェクト The Agridge Project



持続性への挑戦～農業による繋がりを目指して～ Challenging Sustainability -Aiming for Connections through Agriculture-

「農業による地域活性化」を理念に活動しています。理念実現に向けビジネス・コミュニティの2軸から、商品開発・agrink・agreeing・和田べんの4部門で活動しています。

今年度は昨年度生まれた繋がりを持続性強化に取り組みました。商品開発部門ではハマノワビールの商品化で繋がりがあった横浜ビールと新たにフードロス削減企画に挑戦しました。ビール醸造時に発生するモルト粕を昨年度の商品開発で繋がった社会福祉法人トロワランドさんにて加工し、犬用ビーフジャーキーの商品化・販売しました。これまでの活動で培った関係性を活かしフードロスという視点から地域活性化に貢献しました。

野菜を生産する agrink 部門では「畑」を起点として、植え付けや収穫のタイミングで地域との交流創出に取り組みました。ただ今年度は学生が代替わりする中で、畑運営のノウハウや学生と地域住民の繋がり希薄化といった問題も見受けられました。繋がりを生む畑として持続的な活動のあり方を模索していきます。

引き継ぎ2年目となった和田べん部門では、1年積み上げた関係性を活かし新しい挑戦をしました。学生認知拡大のために始めた twitter アカウントは 150 名以上のフォロワーが集まり、オンラインでの新しい繋がり方が生まれました。またミスミスター横国とのコラボでは過去最高の来客が見られ、繋がり輪が広がっているのではないかと感じています。

これまで培った地域との繋がりを、学生が入れ替わる中でも持続できるよう取り組んだ1年でした。来年度もアグリッジを起点としてより多くの「楽しみの輪」を生み出していきます。

■学生数：19名 / 担当教員：池島祥文, 小林誉明

■連携・協力：藤巻芳明, 常盤台コミュニティハウス, 常盤台地区連合町内会, 横浜ビール, 川久保和美, 矢郷農園, 佐野ファーム, 炭火焼肉大将軍, 社会福祉法人開く会, 障害福祉サービス事業所トロワランド, バニヤンツリーベーカリー, FM上星川, 曽我山応援隊, ひまわり亭, アジアンキッチンわだ, TSUBAKI食堂

■活動地域：学外農地, 横浜市(保土ヶ谷区他), 川崎市, 小田原市上曽我地域

■サイト：<https://agridge-chiiki-kasseika.localinfo.jp/>

地域実践アワード

Award

- MVP -

アグリッジプロジェクト

- 準 MVP -

モビリティ・デザインの実践
転倒しない街共創ラボ

- 校友会賞 -

アグリッジプロジェクト

- 学生賞 -

モビリティ・デザインの実践
ハマの屋台プロジェクト

- 地域賞 -

岩手サスティナブル・デザイン・プロジェクト

地域実践アワードの各賞は、地域連携シンポジウムの第1部の発表を踏まえた投票結果により選出されます。シンポジウムの様子は、地域実践教育研究センターのYouTubeチャンネルにて公開しています。

- ・ MVP・準 MVP：総合投票サイトから投票頂いた「全体の総数」
- ・ 地域賞：地域賞限定の投票サイトを通じた「総数および評価点」
- ・ 学生賞：総合投票サイトから投票頂いた「学生」による総数
- ・ 校友会賞：総合投票サイトから投票頂いた「学生以外」の総数

Topic 地域課題実習発ベンチャー「ヨココネクト」

代表：江川海人（都市科学部）

メンバー：藤尾好太郎、松井さやか、落合佑飛、白岩元彦、重村実里、大塚正瑛、鈴木茉凜、小林璃代子、田中聖来

■起業までの経緯・流れ・構成メンバー

設立メンバーは、都市科学部、理工学部、経済学部と全く違うバックグラウンドから来た3人でした。もともと地域課題実習で地域おこしに励んでいたチームメンバーで、志を共にして起業を決意しました。また、そこへ続々と仲間が加わり、横国にとどまらず、東北や関西のメンバーなど10名程度で日々事業を行っています。

会社の経営メンバーのほとんどは、地域課題実習で代表を務めていた、もしくは現在も代表として地域活動を行っています。地域課題実習とは、自分達が社会にどんな価値を還すことができるのかという問いに対して、答えを知るチャンスを与えてくれます。そのような経験が、起業という一見遠いように感じることに、非常に活かされています。

■ヨココネクトの具体的な活動

ヨココネクトは、より良い繋がり、より良い対話を生み出すために、ツール開発やイベント設計を行っています。まちづくり、都市計画、組織づくり、福祉や教育などの場面で活用いただいています。

豊かで活発な対話の実現の為に、細部までこだわった対話促進ボードゲームや、それらを活用したイベント設計により、

コミュニティマネジメントの場面を中心に、交流の場のデザインのお手伝いをしています。

■今後および将来的な展望・目標・ビジョン

ヨココネクトは、対話が溢れる社会を目指しています。世界、日本で起こっている様々な社会課題には、対話の不足、そこから生まれる共感の不足が大きな原因になっていると私たちは考えています。言わなかったこと、言えなかったこと、言いたかったことがより気軽に話せる状況・空間とは一体どのようなものなのかについて研究を重ね、よりよい対話環境を実現させます。

□ WEB サイト <https://yokoconnect.wixsite.com/home>
□ お問合せ先 contact.yokoconnect@gmail.com



Topic ポートランドおよびポートランド州立大学とのオンライン交流会

【地域課題実習 スキルアップセミナー】

ゲスト：幸本温子氏 PLACE (landscape/urban design studio)

主催・共催：地域実践教育研究センター、都市イノベーション研究院、都市科学部

11月19日（土曜）午前に米国のポートランド州立大学と「まちづくりオンライン交流会」を開催しました。この機会は地域課題実習のスキルアップセミナーとしても位置付けており、当日および後日に約60名の学生が参加・聴講をしました。

交流会の第1部では、客員教授の山崎満広先生によりポートランドの都市デザインの潮流やデザインの特徴に関する英語によるレクチャー。第2部では、ポートランドに拠点をおくランドスケープ・都市デザイン事務所（PLACE）の幸本温子氏によるレクチャーがあり、アートワークやワークショップによる住民参加型の設計プロセス事例や、多文化共生による公園のデザイン、そして建築や都市デザインに関わるレクチャーをして頂きました。

第3部では、3名の学生による実践や経験を元にした都市地帯に関わる英語のプレゼンテーションおよびディスカッションが松行美帆子教授による進行で行われました。

八郷真理愛さん（国際社会科学府・修士1年）からは三重県志摩島における地域課題実習や地域おこし協力隊として活動した経験したことを踏まえて、「島の保健室」のような存在や空間をつくりたい、というビジョンが挙げられました。

地域課題実習「みなとまちプロジェクト」の一居成さん

（都市科学部・4年）からは静岡市清水港における活動の内容が紹介され、地方の港町に関してや茶箱をベンチとして活用する「チャバコシカケ」に関するディスカッションが盛り上がりしました。

そして、松下琴莉さん（都市科学部・3年）からはドイツへ留学した経験を踏まえて、留学先の都市の特徴や大学で行った都市計画・デザインに関するプロジェクトが紹介されました。

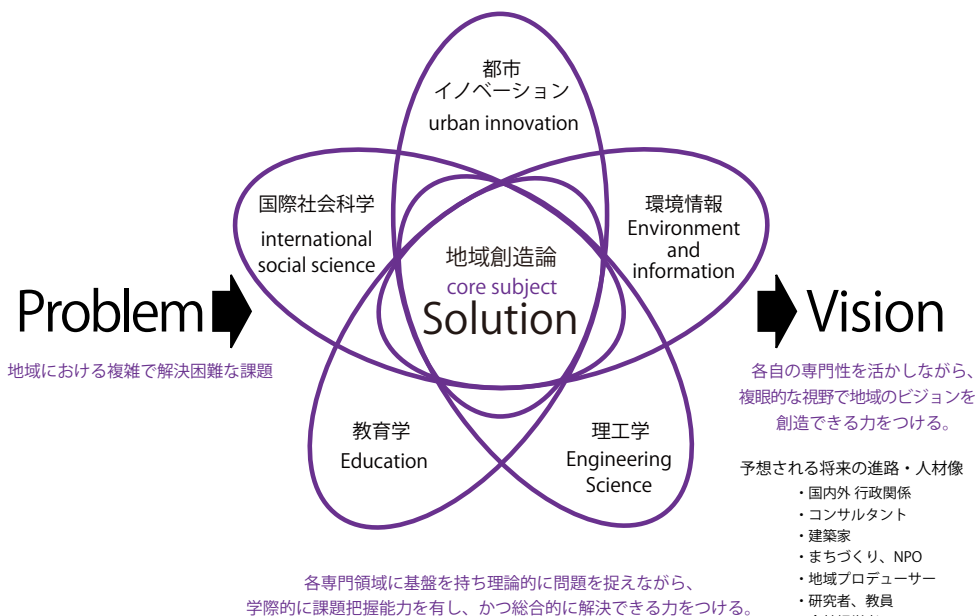
総括のディスカッションにおいては、「多文化共生、ジェンダー、社会的弱者」を含めたまちづくりやコミュニティ形成について議論をすることで、国内外のまちづくり事情・状況・意識の違いを学ぶことができました。



■ 地域創造科目について / About this program

大学院生を対象とした副専攻プログラム「地域創造科目」は、「複雑で解決困難な地域課題を題材に、各専門分野の活かし方を発見し開拓するプログラム」です。2012 年度から開講しました。

Towards complex, intractable community issues, this program takes a theoretical approach from the individual fields of expertise, and is a sophisticated educational program which aims to produce individuals who possess the ability to appraise issues from an interdisciplinary approach and propose comprehensive solutions.



■ コア科目：地域創造論 / Globalized Local Studies

テーマ：「次世代の横浜・神奈川地域像を素描する」

地域創造論のテーマは3カ年毎に設定し、これまでに「ポスト 3.11 の新しい地域像」、「ローカルからの発想が日本を変える、世界を変える。」、そして「地域はどう変わるか 2010 年代から 2020 年代に向かって」としてきました。2021 度からは、さらに先の時代に向かって地域創造ができるように、テーマを「次世代の横浜・神奈川地域像を素描する。」と設定いたしました。前半においては各専門の観点から地域課題を学び、後半は学生が学際的なチームに分かれてグループワークを行い、新しい地域創造に向けた提案・提言を行っています。

■ 講義



政策課題と政策形成 ~県西地域における里山保全と森林再生を事例に

小池治



関内の都市形成の歴史と展開 ~横浜都心地域

秋元康幸



新駅を中心とした湘南地域の新ビジョン

大沼雅也+島圭介



住み続けられる地域をめざして ~羽沢横浜国大駅周辺地域を例に

大原一興



持続性を高める地域創造のこれから ~事業性のあるプロジェクト構想の考え方

山崎満広



相鉄東急直通線と地域創造 ~鉄道沿線を切り口に

高見沢実

つなげる「緑」と「縁」

青野 明都・古川 笑（環境情報）/ 久保島 秀・酒井 実那（都市イノベーション）

持続可能な社会の構築が目指される一方で、都市化により緑地が減少していることが課題として挙げられている。そこで、「つなげる『緑』と『縁』」をテーマに関内地区において、生物多様性の実現と人と自然のつながりの構築を目指す街づくりを提案した。

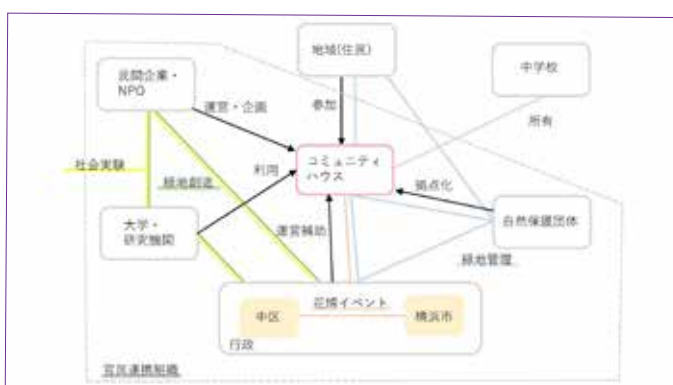
まず、短期目標として、2027年に開催される花博に合わせて、小規模な道路緑化とコミュニティハウスでの自然に触れ合うワークショップを開催する。将来的な大規模緑化の社会実験を兼ねて、日ノ出川公園の駅側道路を緑化する。コミュニティハウスでは、花道や花の販売、園芸系の研究シンポジウムの開催などを通して、人々に自然への関心を持ってもらう。

次に、中期目標として、2030年までに「30by30」実現のために緑地を増設する。横浜駅根岸道路の中央分離帯の創出及び緑化をメインに実施する。同時に、ビルや駐車場の屋上や壁面を緑化する。屋上等でビオトープや農場を創出することで、企業側は集客・福利厚生に利用できる一方で、憩い・体験の場として人も生き物も集まることが予想される。

そして、長期目標として2050年までに、メインアリーナと日ノ出川公園の3区画を繋げた巨大緑地を創出する。巨大緑地では、人と生き物の利用エリアをゾーニングし、生物多様性を維持しつつ、人が自然に親しみながら交流できる場として整備する。また、コミュニティハウスは、屋上農園で栽培された作物の販売・提供に加え、企業や大学の研究・社会実験及びその体験の場として活用する。

事業スキームは、コミュニティハウスが中心となる。特に、緑化の過程で発足が考えられる環境保護団体、NPO、研究組織の実験場としての拠点となる。民間企業には、環境意識のアピールにつながる企画運営等を行なってもらおう。コミュニティハウスに行政、民間、教育等の組織を積極的に巻き込む形で産官学連携組織の形成を行う。

提案：緑と縁を繋げる緑化



オーガニックバレー羽沢

可児 綾加・木村 祐輔（都市イノベーション）/ 小杉 実穂（先進実践学環）

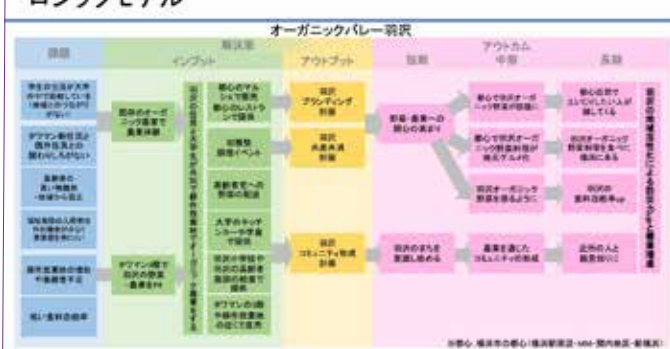
横浜国立大学と羽沢横浜国大駅周辺の羽沢地区は学生が多い、農地や高齢者施設が多いという特徴のほか、開通済みの相鉄・JR 直通線、2023年3月開通の相鉄・東急新横浜線により都心への／からのアクセス向上、024年に完成する駅チカのタワーマンションにより人口増加が想定される。一方で、農業には耕作放棄地増加や後継者不足、学生には学生生活が大学内で完結して大学のあるまちのことをよく知らない、住民にはタワマンが駅チカのためタワマン住民と既存住民との間に関わりが生まれ、高齢者の地域からの孤立といった課題がある。

このような羽沢地区の30年後のテーマとして、オーガニックバレー羽沢を掲げる。住民と学生が共同で耕作放棄地においてオーガニック野菜を栽培し、羽沢地区への提供を通じてコミュニティ形成、収穫祭や調理イベントを行うことにより「共産共消」、横浜都心部のマルシェやレストランで提供することによりブランディング化を図る。オーガニック野菜とは、化学肥料・化学農薬を使わず栽培された野菜のことで、手間暇はかかるが安全であることやコストが浮くという利点がある。また、ただ野菜を販売・提供するだけでなく、6次産業化や、30年後の気候も踏まえて生産可能となる農作物の特産品化を行う。

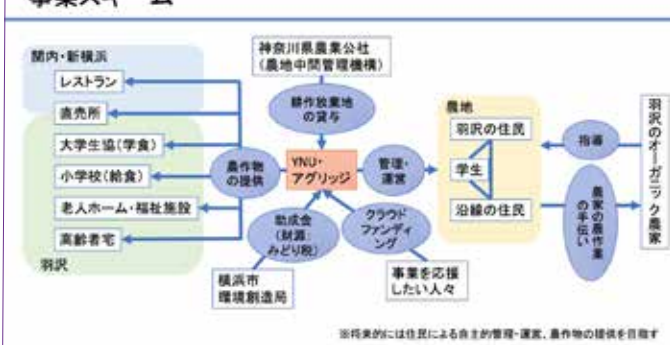
これらは横浜国立大学や地域課題実習プロジェクトのアグリッジプロジェクトが、横浜市環境創造局からの助成金をもとに、神奈川県農業公社から耕作放棄地を貸与してもらい管理・運営を行う。ゆくゆくは羽沢外の人にも耕作やクラウドファンディングを通じた支援によって関わってもらう。

短期的には野菜・農業への関心やまちへの意識を高め、長期的には羽沢の人々が羽沢オーガニック野菜を採ることによる食料自給率のアップや、土いじりしたい人が羽沢にきたり、農業を通じて近所の人と顔見知りになったりすることにより、羽沢の地域活性化による防災力UPと健康増進が達成される。

ロジックモデル



事業スキーム



-1. 学際的研究

地域実践教育研究センターは学際的研究の場として研究活動を推進してきました。これまでに「神奈川県・大学発政策提案制度」においては、2013～2014年度に「県民総力戦による事前復興計画」、2015～2016年度に「未来につなぐ神奈川の里山 - 里地里山の保全効果に関する学際的研究」、2019～2020年度に「Woody～広葉樹の活用による地域活性化と県民の健康増進～」が採択され、学際的な研究の成果を提供してきました。

なお、2017年からは地域連携推進機構にNext Urban Labが設置され、地域に関わる学際的研究の拠点機能は地域連携推進機構に移転しています。

-2. 地域研究

毎年度末には当センターに関わる教員の研究室・ゼミで研究した成果として梗概論文を取りまとめ、「地域研究報」として「横浜国立大学 学術情報リポジトリ」に保管しています。一般の方もウェブサイトを通じて閲覧することができます。

(横浜国立大学学術情報リポジトリ>09全学教育研究施設等>9-4紀要>8-461 横浜国立大学地域実践教育研究センター地域課題実習・地域研究報)

No.	論文タイトル名	執筆者, 担当教員名
1	障害のある子どもが孤立しない放課後の居場所に関する研究 -地域コミュニティの拠点に位置する施設を対象として-	安藤真悠, 大原一興, 藤岡泰寛
2	公共図書館における中高生の居場所等に関するYA部門の計画に関する研究 - 中高生のアンケート調査と職員へのヒアリング調査の考察 -	宇野友梨香, 大原一興, 藤岡泰寛
3	公営住宅団地におけるコミュニティ支援を目的とした学生居住の初期課題に関する研究	中川貴裕, 大原一興, 藤岡泰寛
4	車いす利用者の体育館利用に関する研究 - 横浜市の専用施設と中学校の体育館を対象に -	泉田佑太, 大原一興, 藤岡泰寛
5	地域交流拠点を含む公共施設の複合化が地域に与える影響について - スポーツ施設や図書館等が複合されたオガール紫波を対象として -	篠沢耕太, 大原一興, 藤岡泰寛
6	認知症高齢者グループホーム入居者の生活行動に影響を与える要因に関する研究 - 認知症高齢者グループホームと子どもの居場所の併設事例を対象として -	清水悠斗, 大原一興, 藤岡泰寛
7	郊外住宅地における空き家の地域活用に関する研究 - 微改修による空き家活用の可能性について -	伊波航, 大原一興, 藤岡泰寛
8	博物館の市民活動を通じて醸成される地域愛着に関する研究 - 神奈川県内のエコミュージアムと類似活動団体への調査か	五嶋薫子, 大原一興, 藤岡泰寛
9	郊外住宅地の商店街街区画における交流と地域活動に関する研究	阿彦菜季, 大原一興, 藤岡泰寛
10	買い物難民問題の生じている地域における購買行動と今後の支援策に関する研究 - 神奈川県鎌倉市今泉台を対象とした住民へのヒアリング調査から -	吉田宗谷, 大原一興, 藤岡泰寛
11	地役権の連担により成立した共用地を持つ住宅地の経年変化に関する研究 - ソーラータウン府中におけるケーススタディー	上田成夢, 大原一興, 藤岡泰寛
12	市民参加によるバリアフリーまちづくりの更新視点に関する研究 - 横浜関内・関外地区の通りに着目して -	上山信, 大原一興, 藤岡泰寛
13	「まちやど」と個人商店の関係構築に関する研究 - 谷中周辺地域を対象として -	櫻井美里, 江口亨
14	不動産所有者から見た建築ストックの活用と更新に関する研究 - 熱海市銀座町及び渚町を対象として -	田中莉聖, 江口亨
15	避難所利用を想定した膜屋根体育館における音環境計画に関する研究 - 利用者心理と空間特性に基づく分析 -	藤田匠, 田中稲子
16	窓開け換気による音環境影響の緩和策に関する基礎的研究 - 都市部の保育施設を対象として -	趙 紫彤, 田中稲子
17	ワンルーム型保育施設における空間構成と室内環境に関する研究 - 夏季の温熱・空気環境に着目して -	大西達也, 田中稲子
18	横浜市常盤台の住宅地街路における夜間の光環境に関する研究	國谷遥, 田中稲子
19	まちあるきを通じた地域資源の認知および地域評価の変化が地域愛着に与える影響に関する研究 - 藤沢市片瀬地区の住民を対象として -	小林夏月, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一, 尹莊植
20	都市公園内外の「連続性」に着目した公園利用における豊かさ創出要因に関する研究 - 横浜大通り公園を対象として	林未希, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一, 尹莊植
21	市町村間の移動に着目した生活圏の広がりに関する研究 - 沼津市と三島市を中心とする雇用圏を対象として -	三吉康太, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一, 尹莊植
22	市民による低未利用地の活用の持続要因に関する研究 - 千葉県柏市カシニワ制度を対象にして -	安井健悟, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一, 尹莊植

No.	論文タイトル名	執筆者, 担当教員名
23	都心部の屋外パブリックスペースにおける滞在快適性に関する研究 - 丸の内仲通りを対象とした滞留空間の利用実態と質的評価	山口佳恋, 高見沢実, 野原卓, 矢吹剣一, 尹莊植
24	文化的景観の保全団体の設立・発展プロセスと保全活動の実態に関する研究 - 長野県千曲市娯楽棚田を対象として -	近藤沙紀, 高見沢実, 野原卓
25	地方都市における地元民間企業による不動産事業の連鎖的展開プロセスとその成立要因に関する研究 - 静岡市用宗地区での取組を対象として -	奥野 慎, 高見沢実, 野原卓
26	東日本大震災の被災地における災害危険区域内での復興の実態に関する研究 - 南三陸町、大船渡市で発生した問題と対応に着目して -	杉山 和之, 高見沢実, 野原卓
27	新型コロナウイルス感染症対応の道路占用特例を契機とした道路占用の実態と道路占用主体の意識変化に関する研究	堀田 桃子, 野原卓, 高見沢実
28	都市部における街区公園の新たな使い方とその運営手法に関する研究 - 豊島区「中小規模公園活用プロジェクト」を対象とし	坪井 悠里子, 野原卓, 高見沢実
29	リモートワーク普及を踏まえた移住選択地としての地方都市の可能性に関する研究 - 静岡県三島市を対象地として -	轟貴史, 高見沢実, 藤岡泰寛
30	通時的地域性を内包する市街地景観の形成要因に関する研究 - 横浜市関内地区馬車道通りを対象に -	古川萌子, 野原卓, 高見沢実
31	時間変化に応答する空き施設の利活用プロセスに関する研究 - 伊豆長岡温泉の旅館変遷に着目して -	加治屋知志, 野原卓, 佐土原聡
32	居住地域の自然環境に対する住民の認識と地域満足度との関係分析 - 住民の幸福感和地域満足度向上に寄与する自然環境を活用したまちづくりに向けて -	佐藤順子, 佐土原聡, 稲垣景子, 吉田聡
33	地域連携による水辺空間の維持管理及び利活用の実態と今後のあり方に関する研究	磯本万葉, 佐土原聡, 吉田聡, 稲垣景子
34	COVID-19の流行を経たテレワークの普及による都市のエネルギー消費の変化に関する研究	佐藤芳慧, 吉田聡, 佐土原聡, 稲垣景子
35	地震発生に伴うターミナル駅周辺の混雑緩和に情報もたらす効果 - マルチエージェントシミュレーションを用いた検討 -	鈴木提樹, 稲垣景子, 佐土原聡, 吉田聡
36	横浜市における農地転用の実態及び市民農園の立地特性の把握に関する研究 - 都市農地の宅地化抑制に向けて -	二宮大雅, 稲垣景子, 佐土原聡, 吉田聡
37	収益施設と一体化する都市公園の実態把握とパークマネジメントのあり方に関する検討 - 町田市鶴間公園を対象として -	金原菜々美, 佐土原聡, 吉田聡, 稲垣景子
38	屋内避難所におけるテント設置が避難生活環境に与える影響 - CFD 解析と印象評価に基づく分析 -	加藤 宗一郎, 稲垣景子
39	ベッドタウンにおける災害時の共助需要と担い手の検討 - 千葉県浦安市を対象として -	鍋田悠人, 稲垣景子
40	特定都市河川流域における緑地の雨水浸透・貯留効果の特性と評価手法に関する研究 - 鶴見川流域を対象として -	矢野敦之, 稲垣景子
41	全市区町村産業連関表および機械学習手法（SHAP値）によるウェーバー工業立地論の検証	猪田尚希, 居城琢
42	ミュージックツーリズムの経済波及効果と聖地巡礼の促進に関する考察	梅本彩華, 居城琢
43	横浜 DeNA ベイスターズが主催したイベント開催試合が横浜市にもたらす経済効果と定性的な分析	甲斐 瑞稀, 居城琢
44	沼津市大瀬崎におけるスキューバダイビング経済の在り方	酒井俊志, 居城琢
45	平成 17 年, 23 年, 27 年 幕張新都心産業連関表の作成と分析 - 町丁単位過年度産業連関表の作成	島崎慎一, 居城琢
46	プロ野球地方開催における経済効果	猶原彬, 居城琢
47	つくば市の産業連関表の作成と研究所立地による経済効果について	松本有矢, 居城琢
48	鎌倉市産業連関表の作成と鎌倉インターナショナル FC がもたらす経済波及効果の分析	吉田暁志, 居城琢
49	鎌倉インターナショナル FC を事例にした社会効果の分析	吉田暁志, 居城琢
50	東海オンエアの聖地巡礼による愛知県岡崎市へ経済波及効果	足立佳穂, 居城琢
51	淡路島産業連関表の作成と分析	姥谷航生, 居城琢
52	産業連関表を用いた桐生市繊維産業の産業構造分析	後藤駿太, 居城琢
53	ファジアーノ岡山の J1 リーグ昇格が岡山県に与える経済効果	齋藤直弥, 居城琢
54	ペルーナードームでのプロ野球観戦者が所沢市にもたらす経済効果	寺本幹大, 居城琢
55	あま市における平成の大合併の波及効果分析	内藤彩月, 居城琢
56	障害者が地域に及ぼす経済的影響	松原愛結, 居城琢
57	明治神宮野球場におけるプロ野球が与える経済効果について	村山龍平, 居城琢
58	宮崎県におけるスポーツキャンプと学生がもたらす経済効果	柳田悠貴, 居城琢
59	独立リーグが地域に与える経済効果～富山 GRN サンダーバーズの事例から～	山崎瑤来, 居城琢
60	江ノ島電鉄における沿線住民優先乗車がもたらす貨幣的価値の測定	山田知佳, 居城琢



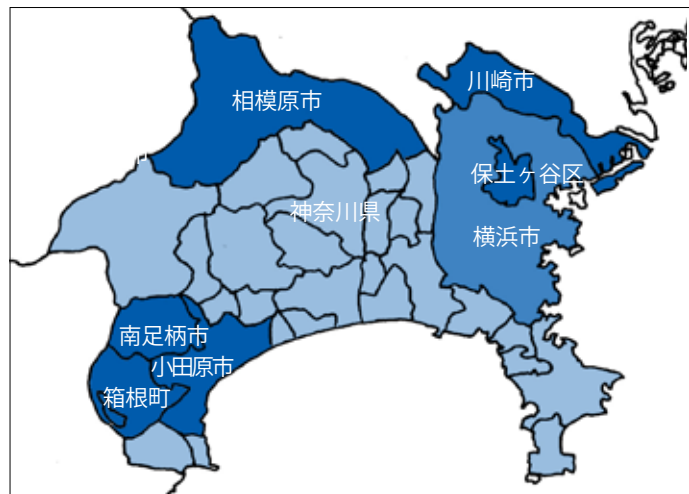
地域連携推進機構について

地域連携推進機構は、地域連携活動および地域課題解決への先導的役割等を果たすとともに、地域社会と連携する中核拠点となるため、2017年4月に設置されました。地域に信頼され、地域に支えられ、地域の発展を支援するという、横浜国立大学の地域戦略における3つの精神を軸に、本学の研究力や教育力を地域問題解決へ還元し、大学として積極的に地域連携活動を推進していきます。

地域実践教育研究センターは2019年度から、成長戦略教育研究センターは2020年度から機構内センターとして位置付けられました。

地方自治体との連携協定

本学では、各地方自治体や事業者等と連携協定を結ぶことによって、より充実した教育活動や研究成果を創出・提供しています。



連携協定を締結している地方自治体

「ネクストコラボレーション拠点」の形成に向けて

社会・地域課題の解決に向けた取り組みを推進するために、神奈川県内における4つの拠点・エリアにおいて「ネクストコラボレーション拠点」の形成を計画しています。具体的には、横浜都心部、羽沢横浜国大駅周辺、湘南、県西地域を対象として、一部ではサテライトキャンパスの設置も計画することで、課題を発見・解決するプラットフォームの構築に向けて計画・推進をしています。

Next Urban Lab

ネクスト・アーバン・ラボは、ヨコハマ、かながわ地域を主なフィールドとして教育・研究・実践活動を行い、その成果を発信する仕組みとして、2017年度より設置されました。地域の人々や、行政・企業・NPOなどと連携して、ヨコハマ、かながわ地域ならではの魅力を活かした地域のナレッジベースの構築を目指しています。

2022年度 地域連携推進機構「Next Urban Lab」ユニット 一覧

No	ユニット名	代表者
1	エディブルガーデン・エディブルキャンパス	池島 祥文
2	地域自治体と連携した統計データ構築と神奈川・横浜の市区町村地域経済分析	居城 琢
3	かながわ観光・環境まちづくり	氏川 恵次
4	ゲーミング横浜	田名部 元成
5	横浜学官共創推進ユニット	真鍋 誠司
6	地域におけるサステナビリティ戦略のためのマネジメントと会計	大森 明
7	経営における矛盾とジレンマが地域の産業や企業のパフォーマンスに及ぼす影響に関する学術的研究	山岡 徹
8	神奈川県民のリーガルサービスの向上のための地域連携活動	渡邊 拓
9	転ばない街のための技術融合型リビングラボ	島 圭介
10	ヨコハマ型リノベーションの実践	江口 亨
11	常盤台まちづくり応援団	大原 一興
12	都市空間研究会—惑星内都市地域理論の構築	樽沼 範久
13	里地里山×まちづくりラボ(サトマチャラボ)	佐藤 峰
14	地球環境未来都市YNU拠点とみなとみらい21地区の連携研究ユニット	佐土原 聡
15	ポピュラー文化を活用したまち・地域の2.5次元化プロジェクト	須川 亜紀子
16	みうらからはじめる研究会	高見沢 実
17	都市型保育施設の環境デザイン	田中 稲子
18	新音響文化研究会	中川 克志
19	郊外居住のクリエイティビティとサステナビリティ	藤岡 泰寛
20	ユネスコ「人間と生物圏」計画支援ユニット	酒井 暁子
21	AOKI起業家育成プロジェクト	周佐 喜和
22	ヨコハマ海洋環境みらい都市研究会	松田 裕之
23	未来の年空間を想定した自然共生型の都市ランドスケープデザイン	佐々木 雄大
24	イノベーション創出を目指す学生の地域連携活動のプラットフォーム	為近 恵美
25	かながわ県西 森里川海みらいプロジェクト	森田 洋
26	神奈川の美しい広葉樹林50地域活性化・健康増進プロジェクト	岸 信治

※ Next Urban Lab の各ユニットの内容は地域連携推進機構の HP サイトにて紹介をしています。検索： ネクストアーバンラボ

■ 機構長



田中稲子
Ineko TANAKA

副学長(地域担当), 地域連携推進機構長, 都市イノベーション研究院, 都市科学部・教授 / 建築環境工学, 住環境

■ センター長



高見沢実
Minoru TAKAMIZAWA

地域実践教育研究センター長
都市イノベーション研究院,
先進実践学環, 都市科学部
・教授 / 都市計画

■ 客員教授



秋元康幸
Yasuyuki AKIMOTO

地域連携推進機構・客員教授 /
都市政策, 都市デザイン

■ 客員教授



山崎満広
Mitsuhiro YAMAZAKI

地域連携推進機構・客員教授 /
都市デザイン, 地域経済開発,
新規事業開発



池島祥文
Yoshifumi IKEJIMA

学長補佐(地域 / 男女共同参画
担当), 国際社会科学研究院,
先進実践学環, 経済学部・准
教授 / 農業経済学, 地域経済学



倉田薫子
Kaoruko KURATA

環境情報研究院, 先進実践学
環, 教育学部・准教授 /
生物多様性保全, 植物地理学



小林誉明
Takaaki KOBAYASHI

国際社会科学研究院(法学),
先進実践学環・准教授 /
政治経済学, 国際協力論,
開発政策研究, ODA 政策研究



居城琢
Taku ISHIRO

国際社会科学研究院, 先進実
践学環, 経済学部・准教授 /
地域経済論, 産業連関論,
中小企業論, 環境経済論



倉田久
Hisashi KURATA

国際社会科学研究院, 先進実
践学環, 経営学部・教授 /
経営工学, 経営情報論,
サービス経営



松行美帆子
Mihoko MATSUYUKI

都市イノベーション研究院,
都市科学部・教授 /
都市計画, 開発途上国都市論



佐藤峰
Mine SATO

都市イノベーション研究院,
先進実践学環, 都市科学部,
准教授 / 国際開発学, 社会人類
学, コミュニティ・デザイン



野原卓
Taku NOHARA

都市イノベーション研究院,
先進実践学環, 都市科学部・
准教授 / 都市計画, 都市デザ
イン



矢吹剣一
Kenichi Yabuki

都市イノベーション研究院,
先進実践学環, 都市科学部・
准教授 / 都市計画, 都市デザ
イン, まちづくり



尹莊植
YOON Jangshik

都市イノベーション研究院,
都市科学部・助教 /
都市計画, まちづくり



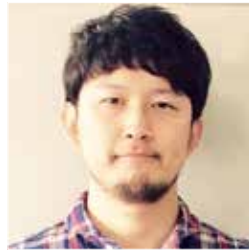
本藤祐樹
Hiroki HONDO

環境情報研究院, 理工学部・教授 / 技術評価論, エネルギー環境システム分析, ライフサイクルアセスメント, エネルギー心理学



小林剛
Takeshi KOBAYASHI

環境情報研究院, 先進実践学環, 都市科学部・准教授 / 環境安全化学, 化学物質管理, 都市環境汚染



遠藤聡
Akira ENDO

環境情報研究院, 先進実践学環, 都市科学部・准教授 / 都市・地域経済学



中村一穂
Kazuho NAKAMURA

工学研究院, 理工学部・准教授 / 化学工学, 水環境工学, バイオプロセス



内海宏
Hiroshi UTSUMI

非常勤講師 (地域連携と都市再生 A) / 地域・地区計画, 市民協働論, 地域・市民まちづくり論



為近恵美
Emi TAMECHIKI

地域連携推進機構・教授 / 応用物理, ナノテクノロジー,アントレプレナー教育, イノベーション人材育成



望月雅之
Masayuki MOCHIZUKI

地域連携推進機構・非常勤教員 / マーケティング,ベンチャー支援, ダイバーシティ就労支援



安野舞子
Maiko YASUNO

高大接続・全学教育推進センター・准教授 / 高等教育, リーダーシップ教育, 人と動物の関係学



氏川恵次
Keiji UJIKAWA

国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経済学部・教授 / 経済統計・経済モデリング, 環境経済学



伊集守直
Morinao IJU

国際社会科学研究院, 先進実践学環, 経済学部・教授 / 財政学, 地方財政論



藤掛洋子
Yoko FUJIKAKE

都市科学部長
都市イノベーション研究院, 都市科学部, 先進実践学環・教授 / 文化人類学, 開発人類学, ジェンダーと開発, パラグアイ地域研究



細田暁
Akira HOSODA

豊穣な社会研究センター・センター長 / 都市イノベーション研究院, 都市科学部・教授 / コンクリート工学, メインテナンス工学, 建設マネジメント



吉田聡
Satoshi YOSHIDA

都市イノベーション研究院, 都市科学部・准教授 / 建築環境・設備



藤岡泰寛
Yasuhiro FUJIOKA

都市イノベーション研究院, 先進実践学環, 都市科学部・准教授 / 建築計画, 都市計画



稲垣景子
Keiko INAGAKI

都市イノベーション研究院, 都市科学部・准教授 / 都市・地域防災, 空間解析

*2023 年度に予定している関連教員として、
地域実践教育研究センターに関わる教員および運営委員（兼任教員）をはじめ、
地域交流科目 コア科目の担当教員、地域課題実習の主な担当教員を掲載しています。



藤原徹平
Teppei Fujiwara

都市イノベーション研究院，
都市科学部・准教授 /
建築設計・建築意匠



江口 亨
Toru EGUCHI

都市イノベーション研究院，
都市科学部・准教授 /
建築構法計画，建築生産



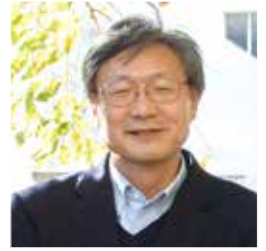
三浦倫平
Rinpei MIURA

都市イノベーション研究院，
都市科学部・准教授 /
都市社会学，地域社会学



小松 怜史
Satoshi KOMATSU

都市イノベーション研究院，
都市科学部・准教授 /
都市防災、インフラ長寿命化，
コンクリート工学



小池 文人
Fumito KOIKE

環境情報研究院，先進実践学
環，都市科学部・教授 /
生態・環境，生物資源保全学



島 圭介
Keisuke SHIMA

環境情報研究院，先進実践学
環，理工学部・准教授 /
生体医工学，リハビリテーショ
ン科学，知能ロボティクス

地域実践教育研究センターからの出版物



みんなのまちづくりゲーム in cities MINMACHI in cities

2022年3月発行

横浜国立大学 地域連携推進機構
地域実践教育研究センター +
南三陸研修センター 編
(池島祥文+伊集守直+志村真紀+浅野拓也)

地域交流科目のコア科目「地域連携と都市再生B(かながわ地域学)」において、参加型授業の教材として用いられてきた「みんなのまちづくり in cities」が販売されました。このゲームでは、チームで地域の経済や行財政の仕組みを学びながら、自分たちが住みたいと思える、まち・地域を実現するためには、どのようなアクション・政策が効果的なのかシミュレートすることができます。

*南三陸研修センターが運営するウェブサイトから購入できます。 <https://ms-minmachi.com>

■ 問合せ・連絡先

横浜国立大学
地域連携推進機構
地域実践教育研究センター

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-3

横浜国立大学 経済学部1号館 406号室

TEL&FAX: 045-339-3579

E-mail: chiki-ct@ynu.ac.jp

URL: <http://chiki-ct.info>

